

教 総 第 6 4 号

令和 7 年 5 月 2 7 日

白岡市議会議長 大島 勉 様

白岡市教育委員会

教育長 横松 伸二



令和 6 年度白岡市教育委員会の点検・評価報告書について

このことについて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和
3 1 年法律第 1 6 2 号）第 2 6 条第 1 項の規定に基づき、別添のとおり
提出します。

令和6年度

白岡市教育委員会の 点検・評価報告書



令和7年5月

白岡市教育委員会

目 次

白岡市教育委員会教育委員名簿	1
I 点検・評価の趣旨	2
II 点検・評価の対象	3
III 点検・評価の方法	3
IV 点検・評価の構成	4
1 点検・評価の項目	
2 実施スケジュール	
3 議会への報告	
4 一般への公表	
V 達成度及び評価結果の判断基準	6
1 達成度の判断基準	
2 評価結果の判断基準	
VI 教育委員会会議の開催状況	7
VII 白岡市教育委員会の点検・評価シート	
1 家庭・地域の教育力の向上	1 6
(1) 家庭教育活動の充実	
(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進	
2 学校教育の充実	2 6
(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成	
(2) 豊かな心、健やかな体の育成	
(3) 教職員の資質・能力の向上	
(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成	
(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備	
(6) 多様なニーズに応える教育活動	
3 社会教育の充実	5 8
(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実	
(2) 人権教育の推進	
(3) 文化・芸術活動の促進	
(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進	
(5) 生涯スポーツの普及・推進	

白岡市教育委員会教育委員名簿

令和 7 年 3 月 3 1 日現在

職 名	氏 名	任 期	備 考
教 育 長	よこ まつ しん じ 横 松 伸 二	令和 6 年 4 月 1 日から 令和 9 年 3 月 3 1 日まで	
教 育 長 職 務 代 理 者	やま ざ き み さ え 山 崎 美 佐 江	令和 3 年 1 0 月 1 日から 令和 7 年 9 月 3 0 日まで	
委 員	わ だ れ い こ 和 田 玲 子	令和 4 年 1 0 月 1 日から 令和 8 年 9 月 3 0 日まで	
委 員	お の め に よ か い 小 野 目 如 快	令和 6 年 1 0 月 1 日から 令和 1 0 年 9 月 3 0 日まで	
委 員	ふく な が は じ め 福 永 肇	令和 5 年 4 月 1 日から 令和 9 年 3 月 3 1 日まで	

I 点検・評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、一般に公表しなければならないこととされています。

白岡市教育委員会は、この規定に基づき、より充実した教育行政を推進するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、教育委員会の事務に関する点検・評価を実施し、この報告書を作成しました。

〔地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

☆ どのような点検・評価を行うか、また、報告書の様式や議会への報告の方法などについては、国が基準を定めるのではなく各教育委員会がそれぞれの実情を踏まえて決定することとされています。

Ⅱ 点検・評価の対象

白岡市教育委員会は、令和４年度から令和８年度までを計画期間とし、この５年間に取り組む目標と施策を示した「第３期白岡市教育振興基本計画」を策定しています。

この計画では、「学び楽しむまちづくり～次代を担う人と豊かな文化を育む～」を基本理念とし、その実現のために１３の施策項目を掲げています。

また、この計画の実効性をより高めるために「令和６年度白岡市教育行政の重点施策」を策定しています。

白岡市教育委員会では、これらの計画・施策に沿って設定した事業等の取組状況について、点検評価を行いました。

Ⅲ 点検・評価の方法

白岡市教育委員会では、各事業の取組状況について、教育委員会による自己評価を行いました。

そして、この点検・評価の客観性を確保するため、教育委員会自らが行った点検・評価やその方法に対して教育に関し学識経験を有するかたから、公正・的確な意見をいただきました。

令和６年度は、吉野高男氏と板垣時夫氏に依頼し、御意見をいただきました。

氏 名	経 歴
吉野高男氏	元白岡市立小・中学校校長会会長 元白岡市立南中学校長
板垣時夫氏	白岡市文化財保護審議会会長 埼玉県文化財協会副会長

IV 点検・評価の構成

1 点検・評価の項目 () 内は掲載ページ

1 家庭・地域の教育力の向上

(1) 家庭教育活動の充実

- ① 親力の育成 (1 6 P)
- ② 家庭教育活動における指導者育成 (1 8 P)

(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進

- ① 体験的な学習機会・活動の充実 (2 0 P)
- ② 放課後や週末などの子どもたちの居場所づくりの推進 (2 2 P)
- ③ 地域の子育て支援活動の促進 (2 4 P)

2 学校教育の充実

(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成

- ① 確かな学力の育成 (2 6 P)
- ② 社会変化へ対応する力の育成 (2 8 P)

(2) 豊かな心、健やかな体の育成

- ① 体験活動の推進と豊かな心の育成 (3 0 P)
- ② 命を大切にする教育の推進 (3 2 P)
- ③ いじめ防止対策の推進 (3 4 P)
- ④ 心身の健康の保持増進 (3 6 P)

(3) 教職員の資質・能力の向上

- ① 教職員の資質・能力の向上 (3 8 P)
- ② 教職員の働き方改革の推進 (4 0 P)

(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成

- ① 家庭・地域・学校の連携・協働 (4 2 P)
- ② ふるさと意識の醸成 (4 4 P)

(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備

- ① 教育環境の整備・充実 (4 6 P)
- ② 安全安心の確保 (4 8 P)

(6) 多様なニーズに応える教育活動

- ① 特別支援教育の充実（５０Ｐ）
- ② 不登校児童生徒への支援（５２Ｐ）
- ③ 外国人児童生徒・帰国児童生徒への支援（５４Ｐ）
- ④ 経済的支援（５６Ｐ）

３ 社会教育の充実

(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実

- ① 生涯学習活動の推進（５８Ｐ）
- ② 生涯学習施設・設備の充実（６０Ｐ）
- ③ 図書館機能の充実（６２Ｐ）
- ④ 子どもの読書活動の推進（６４Ｐ）
- ⑤ 枠組みを超えた生涯学習活動の連携強化（６６Ｐ）

(2) 人権教育の推進

- ① 人権教育推進体制の充実（６８Ｐ）
- ② 啓発活動の充実（７０Ｐ）

(3) 文化・芸術活動の促進

- ① 文化・芸術に触れる機会の充実（７２Ｐ）
- ② 市民の文化・芸術活動の支援（７５Ｐ）

(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進

- ① 文化財の総合的把握の促進（７６Ｐ）
- ① 歴史文化の保存と継承（７８Ｐ）
- ② 歴史文化の情報発信・普及活用の充実（８０Ｐ）
- ④ 市民との連携・協働による歴史文化の保存・活用（８４Ｐ）

(5) 生涯スポーツの普及・推進

- ① 生涯スポーツの普及・推進（８６Ｐ）
- ② スポーツ指導者の育成（８８Ｐ）
- ③ スポーツ施設・設備の充実（９０Ｐ）

2 実施スケジュール

当該年度に実施・推進する施策等について、点検・評価を行い、議会への報告及び一般への公表を行います。

- | | | | |
|-----|-------|-----------|------------------|
| (1) | 1 月下旬 | ・ ・ ・ ・ ・ | 教育委員会事務局で原案作成 |
| (2) | 2 月中旬 | ・ ・ ・ ・ ・ | 学識経験者によるヒアリング |
| (3) | 3 月下旬 | ・ ・ ・ ・ ・ | 学識経験者から意見書を受領 |
| (4) | 5 月 | ・ ・ ・ ・ ・ | 教育委員会での決定 |
| (5) | 6 月 | ・ ・ ・ ・ ・ | 議会への報告
一般への公表 |

3 議会への報告

点検・評価の結果を毎年度、策定後直近の議会において報告します。

4 一般への公表

議会への報告後、教育委員会のホームページに掲載するとともに、閲覧用の報告書等を各公共施設に置きます。

V 達成度及び評価結果の判断基準

1 達成度の判断基準

〔目標と成果・実績とを比較・勘案して〕

- | | | | |
|---|---|-------------|--------------|
| A | … | 達成している。 | (ほぼ 100% 達成) |
| B | … | ほぼ達成している。 | (約 80% 達成) |
| C | … | おおむね達成している。 | (約 60% 達成) |
| D | … | 達成していない。 | (50% 以下) |

2 評価結果の判断基準

〔自己点検・評価と外部評価者の意見等を勘案して〕

- | | | | |
|---|---|------------|--------------|
| A | … | 順調である。 | (ほぼ 100% 満足) |
| B | … | おおむね順調である。 | (約 80% 満足) |
| C | … | やや不調である。 | (約 60% 満足) |
| D | … | 不調である。 | (50% 以下) |

VI 教育委員会会議等の開催状況

～教育委員会会議～

教育委員会会議を、原則として月に1回開催し、付議事案の審議、協議及び報告などを行い、市の教育行政の方針等を決定しています。

令和6年度は、定例の会議を12回、臨時の会議を3回開催し、傍聴人は28人でした。

< 4月定例会 >

○日 時 令和6年4月18日（木） 午前9時

○委任事務等報告事項

第1 区域外就学について

第2 就学すべき学校の指定の変更について

○議案

議案第12号 白岡市地域クラブ活動運営協議会設置要綱

< 5月定例会 >

○日 時 令和6年5月16日（木） 午前9時

○委任事務等報告事項

第1 区域外就学について

第2 就学すべき学校の指定の変更について

第3 学校運営協議会委員の選任について

第4 白岡市地域クラブ活動運営協議会委員の委嘱について

第5 令和6年度白岡市放課後子ども教室コーディネーター
の委嘱について

第6 P T A会長等の表彰について

○議案

議案第13号 令和5年度白岡市教育委員会の点検・評価報告書について

議案第14号 令和6年第3回（6月）白岡市議会定例会提出議案に係る意見聴取について

< 6 月 定 例 会 >

○ 日 時 令和 6 年 6 月 2 7 日（木） 午前 9 時 3 0 分

○ 委 任 事 務 等 報 告 事 項

第 1 区域外就学について

第 2 就学すべき学校の指定の変更について

第 3 令和 6 年度白岡市学校給食委員会委員の委嘱について

第 4 白岡市いじめ防止対策推進委員会委員の委嘱について

第 5 白岡市小・中学校児童・生徒体力向上推進委員会委員
の委嘱について

第 6 白岡市社会教育委員の委嘱について

第 7 白岡市スポーツ推進計画策定委員会委員の委嘱について

第 8 6 月議会定例会の一般質問について

第 9 専決処分の報告について（人事案件）

< 7 月 定 例 会 >

○ 日 時 令和 6 年 7 月 1 1 日（木） 午前 9 時

○ 委 任 事 務 等 報 告 事 項

第 1 区域外就学について

第 2 令和 6 年度就学援助の認定について

第 3 白岡市就学支援委員会の委嘱について

第 4 令和 6 年度白岡市学校給食委員会委員名簿の訂正に
ついて

第 5 専決処分の報告について（人事案件）

○ 議 案

議案第 1 5 号 令和 7 年度使用中学校における教科用図書
の推薦について

< 8 月 定 例 会 >

○ 日 時 令和 6 年 8 月 2 2 日（木） 午前 9 時

○ 委 任 事 務 等 報 告 事 項

第 1 区域外就学について

第 2 令和 6 年度就学援助の認定について

第 3 令和 5 年度白岡市一般会計決算について

○議案

議案第 16 号 白岡市教育委員会公印規則の一部を改正する
規則について

議案第 17 号 令和 7 年度使用中学校における教科用図書の
選定について

議案第 18 号 令和 6 年第 4 回（9 月）白岡市議会定例会提
出議案に係る意見聴取について

< 9 月定例会 >

○日 時 令和 6 年 9 月 19 日（木） 午前 9 時

○委任事務等報告事項

第 1 区域外就学について

第 2 就学すべき学校の指定の変更について

第 3 令和 6 年度就学援助の認定について

第 4 9 月議会定例会一般質問について

○議案

議案第 19 号 令和 7 年度当初白岡市教職員人事異動方針及
び令和 7 年度当初白岡市立小・中学校教職員人
事異動方針細部事項について

議案第 20 号 令和 6 年第 4 回（9 月）白岡市議会定例会提
出議案に係る意見聴取について

< 10 月定例会 >

○日 時 令和 6 年 10 月 17 日（木） 午前 9 時

○委任事務等報告事項

第 1 区域外就学について

第 2 就学すべき学校の指定の変更について

第 3 令和 6 年度就学援助の認定について

第 4 専決処分の報告について

第 5 白岡市教育委員会事務局職員（部長等を除く）の人事
について

○議案

議案第 21 号 白岡市スポーツ推進委員の委嘱について

< 1 1 月 定例会 >

○ 日 時 令和 6 年 1 1 月 1 4 日（木） 午前 9 時

○ 委任事務等報告事項

第 1 区域外就学について

第 2 就学すべき学校の指定の変更について

第 3 令和 6 年度就学援助の認定について

○ 議案

議案第 2 2 号 令和 6 年第 5 回（1 2 月）白岡市議会定例会
提出条例案に係る意見聴取について

議案第 2 3 号 令和 6 年第 5 回（1 2 月）白岡市議会定例会
提出条例案に係る意見聴取について

議案第 2 4 号 令和 6 年第 5 回（1 2 月）白岡市議会定例会
提出議案に係る意見聴取について

議案第 2 5 号 令和 6 年第 5 回（1 2 月）白岡市議会定例会
提出議案に係る意見聴取について

議案第 2 6 号 白岡市立大山小学校統廃合に伴う学用品等
支給要綱（案）の制定について

議案第 2 7 号 白岡市学校運営協議会設置規則の一部を改正
する規則について

議案第 2 8 号 白岡市立小・中学校職員服務規程の一部を改
正する規則について

< 1 1 月 臨時会 >

○ 日 時 令和 6 年 1 1 月 1 4 日（木） 定例会終了後

○ 議案

議案第 2 9 号 令和 6 年第 5 回（1 2 月）白岡市議会定例会
提出議案に係る意見聴取について

< 1 2 月 定例会 >

○ 日 時 令和 6 年 1 2 月 2 6 日（木） 午前 9 時

○ 委任事務等報告事項

第 1 区域外就学について

第 2 就学すべき学校の指定の変更について

第 3 専決処分の報告について

第4 12月議会定例会の一般質問について

○議案

議案第30号 教育財産の用途変更に伴う所管換えについて

議案第31号 白岡市教育委員会事務局職員の分限処分について

< 1月定例会 >

○日時 令和7年1月16日（木） 午前9時

○委任事務等報告事項

第1 区域外就学について

第2 就学すべき学校の指定の変更について

第3 令和7年度小学校入学予定者に対する新入学児童生徒学用品費等の入学前支給の認定について

< 2月定例会 >

○日時 令和7年2月13日（木） 午前9時

○委任事務等報告事項

第1 区域外就学について

第2 令和6年度就学援助の認定について

○議案

議案第1号 白岡市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について

議案第2号 白岡市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について

議案第3号 白岡市教育委員会事務局組織の改編に伴う関係訓令の整備に関する訓令について

議案第4号 白岡市立学校小規模特認校制度実施要綱を廃止する告示について

議題第5号 白岡市立小・中学校県費負担教職員人事（管理職）の内申について

議案第6号 白岡市スポーツ推進委員の委嘱について

議案第7号 白岡市スポーツ推進委員に関する規則等を廃止する規則

議案第8号 白岡市学校体育施設の開放に関する規程及び白岡市スポーツ推進計画策定員会設置要綱を廃止

する告示

議案第 9 号 白岡市 B&G 海洋センター指定管理者選定委員会設置規程を廃止する訓令

議案第 10 号 令和 7 年第 2 回（3 月）白岡市議会定例会提出議案に係る意見聴取について

議案第 11 号 令和 7 年第 2 回（3 月）白岡市議会定例会提出議案に係る意見聴取について

議案第 12 号 令和 7 年第 2 回（3 月）白岡市議会定例会提出議案に係る意見聴取について

< 2 月臨時会 >

○日 時 令和 7 年 2 月 18 日（火） 午前 10 時

○議案

議案第 13 号 白岡市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について

議案第 14 号 白岡市教育委員会事務局組織の改編に伴う関係訓令の整備に関する訓令について

議案第 15 号 令和 7 年第 2 回（3 月）白岡市議会定例会提出議案に係る意見聴取について

< 3 月定例会 >

○日 時 令和 7 年 3 月 13 日（木） 午前 9 時

○委任事務等報告事項

第 1 区域外就学について

第 2 就学すべき学校の指定の変更について

第 3 3 月議会定例会の一般質問について

○議案

議案第 16 号 白岡市立学校の適正規模・適正配置に関する計画策定の基本方針の承認について

議案第 17 号 令和 7 年度白岡市教育行政の重点施策の承認について

議案第 18 号 白岡市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について

< 3 月臨時会 >

○日 時 令和 7 年 3 月 1 9 日（水） 午後 3 時 3 0 分

○委任事務等報告事項

第 1 令和 7 年度当初白岡市教職員人事異動について

第 2 白岡市教育委員会事務局職員（部長等を除く）の人事
について

○議案

議案第 1 9 号 白岡市教育委員会事務局職員（部長等）の人
事について

～教育委員研修会～

教育行政の課題について理解を深め、教育委員会において活発な
議論がされ、適切な判断がなされるよう研修会を開催しました。

○日 時 令和 6 年 4 月 1 1 日（木）

○議 題 ・白岡市立中学校生徒の自転車通学について

○日 時 令和 6 年 8 月 8 日（木）

○議 題 ・白岡市立学校適正規模・適正配置等に係る計画
策定事業及び廃校に伴う補正予算について

○日 時 令和 6 年 1 0 月 3 日（木）

○議 題 ・市内小・中学校の現状と課題（学校訪問）

○日 時 令和 6 年 1 1 月 7 日（木）

○議 題 ・白岡市立学校適正規模・適正配置に関する計画
策定の基本方針（案）について

○日 時 令和 7 年 1 月 2 3 日（木）

○議 題 ・白岡市立学校適正規模・適正配置等計画策定に
係る研修会（市議会議員、市職員と合同）

○日 時 令和 7 年 2 月 8 日（土）

○議 題 ・魅力ある学校づくりシンポジウム

～総合教育会議～

総合教育会議は、首長、教育委員会で構成され、首長が招集する会議です。当市における教育の現状と課題等を共有し、教育行政の一層の充実・発展を図ることを目的としています。

○日 時 令和6年6月6日（木）

○議 題 ・ 今後の小・中学校の在り方について

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	1 家庭・地域の教育力の向上
施策項目	(1) 家庭教育活動の充実
施策の方向	① 親力の育成
主な取組	1 家庭教育学級、家庭教育学級合同講座の充実 2 「親の学習」講座の充実 3 家庭教育学級への支援
目標	家庭や地域の教育力の向上を図るため、家庭教育学級を各小・中学校に委託し開催していただくとともに、教育委員会主催の家庭教育学級合同講座を2回開催します。 なお、より多くの保護者に参加していただけるような開催方法について検討し工夫していきます。 また、「親の学習」講座については、受講者アンケートの結果を反映した講座内容を検討し、一層の充実を図ります。 さらに、「広報しらおか」、市公式ホームページ及びSNSなどを活用して、より多くの保護者に家庭教育や子育てに関する情報を提供できるよう努めます。
事業実績・成果	1 家庭教育学級、家庭教育学級合同講座の充実 家庭教育学級を各小・中学校に委託し開催するとともに、教育委員会主催で家庭教育学級合同講座を2回開催しました。 このことにより、親力を養い、地域で安心して子育てができる環境を整備することを目的とした家庭や地域の教育力の向上が図られました。 (1) 各小・中学校家庭教育学級 ・篠津小学校 1回 17名参加 ・菁莪小学校 1回 11名参加 ・大山小学校 2回 9名参加 ・南小学校 2回 72名参加 ・西小学校 3回 203名参加 ・白岡東小学校 1回 47名参加 ・篠津中学校 1回 17名参加 ・菁莪中学校 1回 8名参加 ・南中学校 2回 32名参加 ・白岡中学校 2回 41名参加 ※「参考になった」、「少し参考になった」と回答した保護者数・割合（457人中406人・88.8%） (2) 令和6年度家庭教育学級合同開校式及び第1回合同講座の開催 ア 演 題 「ネット社会で生きる子供たちと親の役割」 イ 講 師 埼玉県ネットアドバイザー 進藤律子 氏 ウ 開 催 日 5月28日（火） エ 参加者数 44名 ※「参考になった」、「少し参考になった」と回答した保護者数・割合（44人中44人・100.0%）

事業実績・成果	(3) 家庭教育学級第2回合同講座・青少年育成推進大会の開催 ア 演 題 ①「日本赤十字社の活動について」 ②「身近なものでできるとっさの応急手当」 イ 講 師 日本赤十字社 埼玉県支部 ①振興課 振興課長 山本 寛幸 氏 ②指導員 中山 重敏 氏 越野 啓子 氏 ウ 開 催 日 11月13日（水） エ 参加者数 93名 ※「参考になった」、「少し参考になった」と回答した保護者数・割合（93人中90人・96.8％）
	2 「親の学習」講座の充実 来年度の小学校新入学児の保護者を対象に、就学時健診の待ち時間を活用し、「親の学習」講座を開催しました。 なお、家庭教育アドバイザーと協力し、レジュメ（①子育ての目安「3つのめばえ」、②スマホ・タブレットの利用の注意）を作成し、講義を行いました。 このことにより、親が必要とする知識を習得するための学習の場を提供し、家庭教育力の向上が図られました。 ・篠津小学校 10月 8日 69名参加 ・薺我小学校 9月27日 36名参加 ・南小学校 10月 8日 99名参加 ・西小学校 9月17日 131名参加 ・白岡東小学校 10月23日 65名参加 ※「参考になった」、「少し参考になった」と回答した保護者数・割合（357人中321人・89.9％）
	3 家庭教育学級への支援 各小・中学校に上限40,000円の委託金を交付するとともに、テーマや学習内容に係る相談、講師選定等についての助言や情報提供を行うなど、各小・中学校の家庭教育学級の運営を支援しました。 このことにより、地域社会が一体となった教育力の向上が図られました。
達成度	B
学識経験者の意見	家庭教育学級の合同講座が今年度2回実施された。いずれも子育て世代に関心の高いテーマで行われ、多くの出席者があった。事後のアンケート結果から参加者の満足度が高かったことがうかがえる。これが各小・中学校における家庭教育学級の実践の参考になればさらに有益であろう。
課題 今後の対応方針	各小・中学校における家庭教育学級への参加意欲を高めるためには、子育て世代の関心の高いテーマ設定が重要です。 各小・中学校に対し、今後も助言や情報提供に努め、実りある家庭教育学級となるようサポート体制を充実させていきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	1 家庭・地域の教育力の向上
施策項目	(1) 家庭教育活動の充実
施策の方向	② 家庭教育活動における指導者育成
主な取組	1 家庭教育学級担当者打合せ会でのグループワークの実施 2 各小・中学校へ委託している家庭教育学級への家庭教育アドバイザーの派遣 3 「親の学習」講座への家庭教育アドバイザーの派遣 4 家庭教育アドバイザー情報交換会の実施
目標	家庭教育学級や「親の学習」講座へ家庭教育アドバイザーを派遣し、家庭教育活動の充実に図ります。 また、家庭教育アドバイザーに対しては、家庭教育アドバイザー情報交換会を実施し、家庭教育アドバイザーとの連携を図るとともに、県主催の家庭教育アドバイザー研修会への積極的な参加を促すなど、家庭教育学級や「親の学習」講座の内容を充実させることができるよう支援を行います。
事業実績・成果	1 家庭教育学級担当者打合せ会でのグループワークの実施 家庭教育アドバイザー情報交換会で調整を行い、家庭教育学級担当者打合せ会でのグループワークは実施しないことにしました。
	2 各小・中学校へ委託している家庭教育学級への家庭教育アドバイザーの派遣 令和6年度は、家庭教育学級への派遣はありませんでした。
	3 「親の学習」講座への家庭教育アドバイザーの派遣 来年度の小学校新入学児の保護者を対象とした「親の学習」講座の開催に際し、家庭教育アドバイザーを派遣しました。 このことにより、家庭教育活動の充実に図られました。 ・篠津小学校 10月8日 講師2名派遣 ・菁莪小学校 9月27日 講師2名派遣 ・南小学校 10月8日 講師3名派遣 ・西小学校 9月17日 講師1名派遣 ・白岡東小学校 10月23日 講師2名派遣
	4 家庭教育アドバイザー情報交換会の実施 市内在住の埼玉県家庭教育アドバイザーに登録されている方を対象に情報交換会を開催し、「親の学習」講座開催に向けた講義内容やレジュメ（①子育ての目安「3つのめばえ」、②スマホ・タブレットの利用の注意）を作成しました。 また、市外の埼玉県家庭教育アドバイザーを講師としてお招きし、「親の学習」講座の模擬講座を行い、講座について意見交換を行いました。 このことにより、家庭教育アドバイザーの活動を支援し、家庭教育の充実に図られました。 ・第1回情報交換会 4月24日 ・第2回情報交換会 8月4日 ・第3回情報交換会 3月22日

達成度	B
学識経験者の意見	市内の6小学校の就学時健診時に実施した「親の学習」講座の実施には、家庭教育アドバイザーが派遣された。その際にアドバイザー間の情報交換会で作成したレジュメ等を配布及び活用したことは良い取組であった。 また、埼玉県家庭教育アドバイザーを講師として招き「親の学習」講座の模擬講座を行い、講座について意見交換を行ったことは意義ある取組である。家庭教育アドバイザーの情報交換会は、課題を共有し経験を蓄積する場となることを期待する。 今後も各PTAと連携協力しながらスキルアップを図るとともに、その機能を一層確実に発揮できることを期待する。
課題 今後の対応方針	家庭教育アドバイザー情報交換会は、多様な視点の獲得や、専門性の向上、人的ネットワークの構築、モチベーションの維持など、多方面でのメリットをもたらします。 今後も、家庭教育アドバイザー情報交換会の実施や模擬講座を行うことなどにより家庭教育アドバイザーのスキルアップを図り、また、家庭教育アドバイザーの派遣などにより、その機能を発揮できる機会を設け、もって家庭教育学級や「親の学習」講座が充実するようにします。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	1 家庭・地域の教育力の向上
施策項目	(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進
施策の方向	① 体験的な学習機会・活動の充実
主な取組	1 田んぼの学校の開催 2 自然観察会の開催 3 自然ふれあい体験教室の開催 4 いきいきk i d s の発行
目標	田んぼの学校、自然観察会、自然ふれあい体験教室等を中心に、引き続き体験的な学習機会を提供していきます。また、開催日・会場を工夫するなど、ニーズに合った学習内容を検討し、より多くの人にとって参加しやすい内容とします。
事業実績・成果	1 田んぼの学校の開催（全4回 連続講座） 農家の方等の指導のもと、米作りを行うことにより、親子で食べ物の大切さや農業の大変さを学ぶ機会を提供し、食育の一端を担うことができました。 ・田植え体験 5月11日 8組24名 ・田んぼの生き物観察会 6月9日 9組23名 ・稲刈り体験 9月7日 10組29名 ・しめ縄作り・お米の試食会 11月10日 9組29名 延べ36組105名
	2 自然観察会の開催（全3回） 親子で自然体験を共有し絆を強め、児童生徒の世代間や異年齢交流を促す活動の機会を提供することができました。 ・夜の昆虫観察会 7月13日 11組25名 ・甲虫の標本を作ろう 8月17日 2組5名 ・ひこべえの森 冬のつどい 12月14日 97名 延べ127名
	3 自然ふれあい体験教室の開催 子どもたちに市内では味わえない自然等にふれ合い、また異年齢交流、社会体験等を通じ、豊かな人間性ややさしさを育む学習の場を提供することができました。 8月6日～7日（1泊2日） 11名 行き先 宇都宮市冒険活動センター 外
	4 いきいきk i d s の発行 3月に令和6年度の活動内容をまとめた「いきいきk i d s」を作成し、ホームページ上に掲載し、周知を図った。

事業実績・成果	5 その他の体験活動の実施 親子で楽しみながら調理を行うわいわい料理教室（全4回）の開催により、親子の絆を深めるとともに、料理の大変さや食べ物の大切さを身をもって実感し、食への感謝をすることで、食育の一端を担うことができました。 また、料理をすることによって五感が養われ、子どもの感覚を育てる成長の機会を提供することができました。 ・うどん打ち 7月13日 5組12名 9月14日 3組 6名 ・ピザづくり 9月28日 5組15名 11月 9日 6組18名 延べ19組51名
達成度	B
学識経験者の意見	白岡市は自然環境に恵まれているが、実際に体験的な学習の機会は少ないと思われる。そのような中で行われる、田んぼの学校、自然観察会、自然ふれあい体験教室、わいわい料理教室は、子ども達が学校とは異なる場での体験学習の機会が提供され、貴重で大変意義ある取組である。 田んぼの学校は田植えから稲刈り、しめ縄作りと、主食である米がどのような過程で収穫されるのか、米作り体験を通して農業のあり方や食の重要性について学ぶ場を提供していることで、今日的にも意義深いと言える。収穫した稲束からしめ縄作りまで行う、大変よい企画である。 自然ふれあい体験教室では参加が11名と少ないように思われるが、日程設定や参加者の動向を考慮しながら、多くの子供たちが参加できるよう工夫し、この取組が長く継続されることを願う。 また、これらの取組に関わることでできる人材の確保と併せて保護者・児童への周知方法の工夫により参加者の増加を課題としてほしい。
課題 今後の対応方針	自然ふれあい体験教室については、ボランティアスタッフの確保が難しくなっているほか、近年の猛暑化により、真夏における屋外活動の安全性の確保が難しくなっています。 そのため、内容や運営方法の見直しを検討していきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	1 家庭・地域の教育力の向上
施策項目	(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進
施策の方向	②放課後や週末などの子どもたちの居場所づくりの推進
主な取組	1 放課後子ども教室の充実・拡大
目標	菁莪小学校、大山小学校及び白岡東小学校において、放課後に教室等を活用し、子どもたちが安心して過ごせる居場所を設けて、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する教室を開催します。 (菁莪小学校：年 1 6 回、大山小学校：年 1 2 回、白岡東小学校：8 回)
事業実績・成果	1 放課後子ども教室の充実・拡大 菁莪小学校及び大山小学校、白岡東小学校において、放課後子ども教室を開催しました。 このことにより、子どもたちの安全・安心な居場所を設け、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに成長していく環境づくりを推進し、地域の子育てネットワークを構築することができました。 (1) 菁莪小学校 (参加児童数：3 6 名（1～3 年生：1 8 名、4～6 年生：1 8 名）) ア マーブリング 6 月 1 3 日 1 6 名（1～3 年生） 6 月 2 0 日 1 7 名（4～6 年生） イ ペットボトル工作 7 月 4 日 1 8 名（1～3 年生） 7 月 1 1 日 1 8 名（4～6 年生） ウ シラオ仮面ダンス 9 月 5 日 1 7 名（1～3 年生） 9 月 1 9 日 1 1 名（4～6 年生） エ モルック教室 1 0 月 3 日 1 7 名（1、3 年生） 1 0 月 1 7 日 1 7 名（4～6 年生） オ バルーンアート 1 1 月 2 1 日 1 7 名（1～3 年生） 1 1 月 2 8 日 1 4 名（4～6 年生） カ ボッチャ教室 1 2 月 5 日 1 7 名（1～3 年生） 1 2 月 1 9 日 1 3 名（4～6 年生） キ ドッチビー 1 月 1 6 日 1 1 名（1～3 年生） 1 月 3 0 日 1 6 名（4～6 年生） ク 漢字釣り 2 月 6 日 1 5 名（1～3 年生） 2 月 2 0 日 1 6 名（4～6 年生） ※「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答した児童数・割合（3 6 人中 2 1 人・5 8．3％）、「来年度も参加したい」と回答した児童数・割合（3 6 人中 1 7 人・4 7．2％）

事業実績・成果	(2) 大山小学校（参加児童数：9名）
	ア マーブリング 6月 6日 7名
	イ シャボン玉づくり 6月 27日 8名
	ウ セタ作り 7月 4日 6名
	エ ペットボトルロケット 9月 12日 9名
	オ 走り方教室 10月 3日 8名
	カ 料理教室（茶巾しぼり） 10月 24日 8名
	キ 漢字釣り 11月 7日 9名
	ク 軽スポーツ 11月 28日 9名
	ケ クリスマス会 12月 12日 9名
コ マジック・腹話術 1月 23日 7名	
サ お囃子 2月 13日 8名	
シ お楽しみ会 2月 30日 9名	
	※「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答した児童数・割合（9人中9人・100%）
事業実績・成果	(3) 白岡東小学校（参加児童数：49名（1～2年生：24名、3～6年生：25名））
	ア レクリエーション 9月 26日 24名（1～2年生）
	イ 折り紙とペンシルバルーン 10月 10日 24名（3～6年生）
	ウ ボンボン人形 10月 24日 24名（1～2年生）
	エ 写真立て作り 12月 12日 25名（3～6年生）
	オ 軽スポーツ 11月 7日 23名（3～6年生）
	カ 色紙に夢を書こう 12月 5日 24名（1～2年生）
	キ 軽スポーツ 1月 16日 22名（1～2年生）
	ク 色紙に夢を書こう 1月 23日 21名（3～6年生）
	ケ 色紙に夢を書こう 2月 6日 23名（1～2年生）
	※「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答した児童数・割合（49人中33人・67.3%）、 「来年度も参加したい」と回答した児童数・割合（49人中32人・65.3%）
達成度	A
学識経験者の意見	放課後子ども教室は、今年度は新たに白岡東小学校が加わり、菁莪小学校、大山小学校の3校で実施されたことが評価できる。年間に実施されたプログラムは、マーブリング、セタ作り、ペットボトル工作など多彩であり、子ども達が興味関心を寄せるものになっており工夫を感じられる。これだけのプログラムを実施するには、通常のスタッフをはじめ、コーディネーターや教育活動サポーター、さらにボランティアで構成され、子どもたちを地域の大人たちが見守っている安心感があり、参加した子供たちにとっては授業や家庭では体験できないことを楽しめることで満足度も高いと思われる。 スタッフ、ボランティア等が事業運営に尽力していることを評価するとともに、この事業が地域の子育てネットワークの構築の推進に寄与すること、そして「放課後こども教室」が市内のすべての小学校区で実施されることを期待する。
課題 今後の対応方針	放課後子ども教室がすべての小学校区で実施されることを目標として、今後も放課後子ども教室の充実・拡大を図っていきます。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	1 家庭・地域の教育力の向上
施策項目	(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進
施策の方向	③地域の子育て支援活動の促進
主な取組	1 子育て・家庭教育に関わる団体（組織）との連携・協力
目標	子育て・家庭教育に関わる団体（組織）同士が課題を共有し、協力しながら活動できるよう団体間の交流の機会を設けるほか、共同事業を実施します。 また、子育て・家庭教育に関わる団体（組織）と連携・協力し、地域一体となった子育て支援活動を促進します。
事業実績・成果	1 子育て・家庭教育に関わる団体（組織）との連携・協力 地域の子育て支援組織である「町ぐるみん白岡」との共催により、おやじの会交流会及びトークフォークダンスを開催しました。 このことにより、各小・中学校各団体の課題を共有し、各団体同士の連携を深めることができ、地域一体となった子育て支援活動の促進が図られました。 また、地域の子育て支援組織であるＡＳＣにより菁莪小学校でモルック教室を実施しました。 このことにより、家庭・地域・学校が一体となった子育て支援活動の促進が図られました。 (1) 学校応援団交流会 (今年度は実施なし) (2) おやじの会交流会 12月14日 14名 ひこべえの森冬のつどい内で実施 (3) モルック教室（放課後子ども教室として実施）（再掲） ・菁莪小学校 11月3日 17名（1～3年生） 11月17日 17名（4～6年生） (4) トークフォークダンス 3月3日 40名（生徒） 40名（大人）
達成度	B
学識経験者の意見	地域の子育て・家庭教育に関わる団体間での課題の共有、交流や共同事業は地域の子育て力のアップに必要なことである。このような中で「町ぐるみん白岡」と、今年度からの事業の「トークフォークダンス」が開催された。地域一体となった子育て支援活動が推進できたことを評価する。 「ひこべえ森、冬のつどい」での交流会は、「町ぐるみん白岡」とおやじの会だけでなく市内の中学生も参加した事業として実施されたもので評価する。 今後もこうした団体の担い手を充足させることにも注力し、イベント等を通して交流を深めて、地域一体となった子育て支援の輪を広げる努力を続けてほしい。
課題 今後の対応方針	子育て・家庭教育に関わる団体や組織間で課題を共有し、協力しながら活動できるよう団体間の交流の機会をイベント等を通して設けるなど、今後も子育て・家庭教育に関わる団体等と連携・協力し、地域一体となった子育て支援活動を促進していきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成
施策の方向	①確かな学力の育成
主な取組	1 課題発見・解決能力の育成 2 主体的・対話的で深い学びの充実 3 少人数指導の充実 4 教育補助員、I C T支援員の活用・拡充 5 全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査の結果の分析と指導方法改善 6 教育課程研究推進委員会の開催
目標	児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実や、1人1台端末を活用して個別最適化した学びの充実など基礎・基本の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを充実し、課題発見・解決能力を育成していきます。また、そのための環境整備の充実に努めます。
事業実績・成果	1 課題発見・解決能力の育成 課題発見・解決能力の育成のため、市内全ての小・中学校において、学校研究課題を設定し、研究を進めました。校内研修に位置付けることにより、教職員全員の課題発見・解決能力の育成を図ることができました。 ・篠津小学校・・・児童一人一人が「わかる・できる」を実感できる指導法の工夫～国語科・算数科を通して～ ・菫我小学校・・・自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める児童の育成～豊かな心を育み、互いに学び合う道徳の授業をとおして～ ・大山小学校・・・目的を正確に理解し、豊かに表現できる児童の育成～国語科を中心をして～ ・南小学校・・・進んで、課題解決できる児童の育成～自律的に学ぶための指導法の工夫～(算数科) ～課題に対し、自ら立ち向かう力を育てる指導法の工夫～ ・西小学校・・・自ら学び続け、互いに認め、高め合える西小っ子の育成～主体的・対話的な学びの充実を目指して～ ・白岡東小学校・・・認め合い、高め合い、未来を切り拓く児童の育成～話し合う場面を生かした算数授業の展開を通して～ ・篠津中学校・・・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～誰一人取り残さない指導の工夫～ ・菫我中学校・・・確かな学力の向上と人間性豊かな生徒の育成 ・南中学校・・・みんなでつくるみんなの南中の実現 ～各調査等の分析を活かした学校づくり～ ・白岡中学校・・・子どもたちの可能性を引き出すための学びの実現を目指して ～I C T機器を利用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」～ 2 主体的・対話的で深い学びの充実【重点】 主体的・対話的で深い学びの充実を図るため、1人1台端末を活用した、「授業づくりの原点」に立ち戻って考えるような研修を各校において進めています。このことにより、「児童生徒の思考がどのように広がり、深まっていくのか」「児童生徒にどのような支援が必要なのか」「個別、協働、一斉をどのように授業に取り入れるのか」等、授業づくりの研修の充実を図ることができました。 3 少人数指導の充実 少人数指導の充実のため、小学校4名、中学校6名配置している教科指導充実加配や、小学校1名、中学校3名配置している会計年度任用職員（教科指導補助・市費）を適切に活用しています。このことにより、児童生徒の学力向上を図ることができました。

事業実績・成果	4 教育補助員、I C T支援員の活用・拡充 市内小・中学校の現状を把握し、教育補助員、I C T支援員の活用・拡充を行いました。 このことにより、児童生徒一人一人のニーズに応じた支援を図ることができました。 ・生活の補助 小学校15名、中学校8名 ・理科支援員 全ての小学校に配置（3名） ・図書館補助 全ての小・中学校に配置（3名） ・日本語指導 対象の学校に配置（3名） ・教科指導補助 対象の学校に配置（4名） ・支援相談員 全ての小学校に配置（6名） ・さわやか相談員 全ての中学校に配置（4名） ・I C T支援員 全ての小・中学校にて支援（3名）
	5 全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査の結果の分析と指導方法改善 「全国学力・学習状況調査」及び「県学力・学習状況調査」の結果分析と指導方法の改善を各校で実施しました。また、校長会・教頭会において、白岡市全体の結果を周知し、指導方法改善に向けた具体的な取り組み方法についても指導をしています。このことにより、各校において学力向上の視点を踏まえた校内研修の充実が図られました。
	6 教育課程研究推進委員会の開催 令和6年度教育課程研究推進委員会を7月11日（木）、12月4日（水）に開催しました。 このことにより、小・中学校の学力向上、働き方改革、教育課程編成について共通理解を図るとともに、各校の授業・研修に生かすことができました。 【内容】 ①授業改善について ②働き方改革の推進について ③教育課程の編成について
達成度	B
学識経験者の意見	「主体的・対話的で深い学び」の充実を図るために各校で研修を推進し、課題発見・解決能力の育成を図ったことを評価する。 また、本市の児童生徒は全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査において、全国平均・県平均を上回り高い学力を維持している。このことは高く評価できる。 今後は、「主体的・対話的で深い学び」の充実からその深化と恒常化を目指して「協働的な学び」を中心とした授業づくりの研修・実践が全ての学校において推進されることを期待する。 また、1人1台端末の活用が、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の相乗的な効果により、学びを深めるための授業づくりにつながっていくよう努めてもらいたい。そして、本市の全ての教室が誰もが互いにつながって学び合う教室であることを強く願う。
課題 今後の対応方針	主体的・対話的で深い学びの充実については、今後も協働的な学びを中心とした授業づくりについて、各校において研修を深めていきます。全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査において、全国平均・県平均を上回ることができるよう、I C Tの活用や少人数指導の充実を今後も図っていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成
施策の方向	②社会変化へ対応する力の育成
主な取組	1 情報モラル教育、情報活用能力の育成 2 A L Tを活用した授業の充実 3 キャリア教育の充実 4 I C T支援員の活用・拡充 5 主権者教育や消費者教育の推進
目標	国際化、情報化の進展に対応するため、1人1台端末の活用など児童生徒の情報活用能力の育成を図ります。また、白岡市子どものネット利用宣言を活用し、児童生徒が自ら安全に情報を活用する姿勢を育てていくなど、情報モラル教育を推進します。A L Tを配置し、外国語科等の教科指導や国際理解教育の充実を図ります。変化し続ける社会でも生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育むため、キャリア教育の充実に努めるとともに、主権者教育、消費者教育の推進にも努めます。
事業実績・成果	1 情報モラル教育、情報活用能力の育成 白岡市子どものネット利用宣言のリンクを児童生徒の学習用iPadに貼り付け、いつでも確認ができる状態にしています。 埼玉県ネットトラブル注意報を各校に配布し、ネットトラブル防止を周知しました。その結果、児童生徒及び保護者への啓発、教職員への研修に生かすことができました。 また、I C T端末の活用に関するオンライン研修を実施しました。
	2 国際化、情報化の進展に対応するため、1人1台端末の活用など児童生徒の情報活用能力の育成を図ります。また、白岡市子どものネット利用宣言を活用し、児童生徒が自ら安全に情報を活用する姿勢を育てていくなど、情報モラル教育を推進します。A L Tを配置し、外国語科等の教科指導や国際理解教育の充実を図ります。変化し続ける社会でも生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育むため、キャリア教育の充実に努めるとともに、主権者教育、消費者教育の推進にも努めます。
	3 キャリア教育の充実 職場体験を全中学校で実施しました。 このことにより、各学校において、キャリアパスポートの活用を通じて一人一人のキャリア形成につなげることができました。
	4 I C T支援員の活用・拡充 I C T支援員3名を配置し、I C T機器の整備、活用につなげました。 ・I C T支援員3名 1日5時間、週3日
	5 主権者教育や消費者教育の推進 各学校において社会科の授業を中心に主権者教育、消費者教育を推進できるようリーフレット等の活用について周知するほか、セミナーの案内をしました。 中学校では、生徒会役員選挙の際に市の選挙用記載台や投票箱を使用して選挙を行う経験をしました。 このことにより、主権者教育の理解や、消費者教育の推進を図ることができました。
達成度	B

学識経験者の意見	外国語教育、国際理解教育の充実のため、A L Tを全中学校に各1名また、小学校6校に対し2名配置し、成果をあげていることを評価する。今後は、小・中の連携や授業時以外のA L Tの積極的な活用を促し、一層質の高い活用を期待したい。さらに小学校においても全ての学校に配置できることを期待する。 1人1台端末を生かした教育活動を推進する上で、情報モラル教育は必須である。児童生徒、保護者への啓発および教職員の研修の実施などに取り組んでいることが評価できる。今後、保護者への啓発活動をさらに工夫して一層広く多くの保護者に「自分事」として心に届くものになることを期待する。
課題 今後の対応方針	1人1台端末を始めて令和7年度は5年目となり、タブレット端末を生かした学習活動では、各学校、各教員によって様々な取組がなされ、継続的に行われています。タブレット端末を学習に活かしている一方で、タブレットによって起こる生徒指導上の問題も増えています。教育活動を推進する上で、「情報モラル教育」は必須であり、今後も、児童生徒、保護者、教職員への啓発や研修を行います。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(2) 豊かな心、健やかな体の育成
施策の方向	①体験活動の推進と豊かな心の育成
主な取組	1 道徳教育の充実と人権教育の推進 2 埼玉の子ども70万人体験活動 3 外部の指導者や講師の活用 4 保育所や高齢者福祉施設等地域との交流 5 規律ある態度の育成 6 読書活動の推進
目標	児童生徒の豊かな心を育むため、道徳の授業の充実を図るとともに埼玉の子ども70万人体験活動や地域の方々との交流などの体験活動を推進します。また、同和問題をはじめ、子ども、高齢者、障がい者、外国人、性的マイノリティ、ジェンダー等をめぐる人権問題やインターネットでの人権侵害など様々な人権課題に対応した人権教育を推進していきます。
事業実績・成果	1 道徳教育の充実と人権教育の推進【重点】 道徳教育の充実と人権教育の推進を図るため、道徳科のみならず、学校教育全体や家庭教育において様々な取組を行っています。 このことにより、学校のみならず、家庭においても、道徳教育や人権教育の推進を図ることができました。 ・いじめ防止基本方針（各校のHPで公開） ・特別の教科道徳の授業の着実な実践 ・家庭用「彩の国の道徳」の周知 ・各中学校で生徒会主体の「人権集会」の実施
	2 埼玉の子ども70万人体験活動 中学校における職場体験チャレンジや、全ての小・中学校で行われているみどりの学校ファーム等で体験活動を実施しました。 このことにより、思いやりの心や規範意識、学習意欲、目的意識、望ましい勤労観・職業観を育むなど、豊かな人間性や社会性など「生きる力」の基礎を築くことができました。
	3 外部の指導者や講師の活用 稲作体験、文化体験学習など、地域の方々の招いての交流学习を実施しました。 地域の方との交流により、「ふるさと意識の醸成」を図ることができました。
	4 保育所や高齢者福祉施設等地域との交流 中学校において、保育所体験学習を実施しました。 このことにより、思いやりの心や、親や周りの人に対する感謝の気持ちを育むことができました。
	5 規律ある態度の育成 全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、基本的な生活習慣（早寝・早起き、朝食）については、小・中学校ともに全国平均と比較して好ましい結果となっています。 各校においては、基本的な生活習慣の結果を保護者等にも周知し、さらなる定着を図ることができました。
	6 読書活動の推進 ボランティア団体による児童への読み聞かせや、生涯学習課学び合い図書館担当による児童へのブックトークが行われました。 このことにより、読書活動の推進を図ることができました。
達成度	B

学識経験者の意見	特別の教科道徳を着実に実践したことと家庭用「彩の国の道徳」の周知により、道徳教育の充実を図ったこと、そして人権教育の推進を図ったことを評価する。とりわけ、中学校で生徒会主催の「人権集会」が行われていることは意義深い。人権尊重の大切さを考える機会として全ての生徒の心に届く取組として継続されることを願う。家庭用「彩の国の道徳」については、中学校における家庭への啓発が一層求められる。
課題 今後の対応方針	体験活動を通じて、積極性や協調性、コミュニケーション力など子供たちの豊かな心を育成することを目的に、外部指導者の活用や行事の精選など、さらなる工夫が求められます。 また、道徳教育においては、推進教員を核とした授業のボトムアップが求められます。 読書活動の推進は、ブックトークや図書室の活用だけではなく、ＩＣＴの効果的な活用も必要になります。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(2) 豊かな心、健やかな体の育成
施策の方向	②命を大切にする教育の推進
主な取組	1 道徳教育の充実と人権教育の推進 2 いじめ防止基本方針の推進 3 教育相談の充実 4 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化 5 SOSの出し方に関する教育の推進
目標	全教育活動を通じて道徳教育を推進し、児童生徒が命はかけがえのないものであることを実感し、自他の命を大切にする教育を推進します。また、様々な悩みや困難を身近な人に相談できる体制づくりを充実していきます。
事業実績・成果	1 道徳教育の充実と人権教育の推進【重点】（再掲） 道徳教育の充実と人権教育の推進を図るため、道徳科のみならず、学校教育全体や家庭教育において様々な取組を行っています。 このことにより、学校のみならず、家庭においても、道徳教育や人権教育の推進を図ることができました。 ・いじめ防止基本方針（各校のHPで公開） ・特別の教科道徳の授業の着実な実践 ・家庭用「彩の国の道徳」の周知 ・各中学校で生徒会主体の「人権集会」の実施
	2 いじめ防止基本方針の推進 いじめ防止対策推進委員会・定例会（11／6）にて、市内小・中学校において、「いじめ防止基本方針」に則り、適切に対応しているか協議しました。 このことにより、いじめ防止について体制についての共通理解を図ることができました。
	3 教育相談の充実 教育相談の充実を図るため、各校で開催されている教育相談連絡会に指導主事が参加しました。 また、電話や面談により保護者と教育相談を行いました。 このことにより、生徒指導・教育相談上、支援を要する児童生徒を把握するとともに、指導・対応について助言を行うことで、早期の解決を図ることができました。 ・教育相談連絡会の実施（小学校18回、中学校12回、合計30回）
	4 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化【重点】 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを小・中学校に適切に配置しました。 このことにより、小・中学生や保護者からの相談に対応し、いじめ等の早期発見・早期解決の一助となりました。 ・支援相談員（全小学校に配置 6名） ・さわやか相談員（全中学校に配置 4名） ・スクールカウンセラーの配置（小学校2名、中学校に2名） ・スクールソーシャルワーカーの配置（教育支援センターに県費・市費兼務1名）
	5 SOSの出し方に関する教育の推進 国、県通知を市内小・中学校に周知するとともに、さわやか相談員やスクールカウンセラーの適切な配置を行いました。 また、ネットトラブル等を防止し、ネットに関するSOSの出し方についての情報モラル教育を、各校の実態に応じて、外部講師を招いて実施するなど、各校の実態に応じて取り組みました。 このことにより、SOSを出しやすい環境を整備することができました。

達成度	B
学識経験者の意見	教育相談の充実のため、各校が定期的に教育相談連絡会を実施し、それに指導主事も出席し、学校と教育委員会が積極的に情報共有することにより、早期解決に努めたことを評価する。 全小学校に支援相談員を、全中学校にさわやか相談員を、さらに中学校にはスクールカウンセラーを配置することにより、いじめ防止や不登校児童生徒対策にきめ細やかに対応したことを評価する。 可能であるならば、スクールカウンセラーを全中学校に毎週 1 日配置し、小学校にも出向くことができるような環境が整うことを願う。
課題 今後の対応方針	今後も教育相談の充実のため、各校が定期的に行う教育相談連絡会に、指導主事やスクールソーシャルワーカーが出席し、指導・助言を行っていきます。いじめ防止や不登校児童生徒対策にきめ細やかに対応するため、さわやか相談員やスクールカウンセラーを適切に配置し、小・中学校間で情報を共有し、早期に解決できるよう連携を深めていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(2) 豊かな心、健やかな体の育成
施策の方向	③いじめ防止対策の推進
主な取組	1 いじめ防止対策推進委員会の開催 2 学級経営の充実
目標	いじめ防止対策推進法に基づき、各学校で定められたいじめ防止基本方針を推進し、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに相談体制の充実を図ります。
事業実績・成果	1 いじめ防止対策推進委員会の開催 市内小・中学校におけるいじめ防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のため、いじめ防止対策推進委員会を開催しました。 このことにより、いじめ防止等のための有効な対策について協議を図り、小・中学校に周知することで、いじめ防止について啓発を図ることができました。 ・いじめ防止対策推進委員会（定例会） 1 回（11／6）開催 2 学級経営の充実 学級経営の充実を図るため、夏季休業中に総合的な学習の時間充実研修を実施しました。 このことにより、若手教職員の指導力向上を図ることができました。 (1) 日 時 8月1日（木）8：50～11：30 （白岡東小学校） (2) 対象者 市内小中学校の学級担任及び副担任、教科担当教員 (3) 趣 旨 若手教員及び経験年数の少ない教員が、総合的な学習の時間をきっかけに学級経営を充実させる方策について学び、自らの指導力を向上させました。
達成度	B
学識経験者の意見	いじめ防止対策推進委員会（定例会）を着実に実施し、協議事項を各校に周知することでいじめ防止について啓発を図ったことを評価する。この取組は、不断に継続することが何よりも大切である。学校と家庭・地域、並びに行政機関が強く連携して子ども達を見守る体制をしっかりと築いていかなければならない。 特に学校においては、いじめの未然防止・撲滅のための取組をこれまで以上に確実に推進することを強く願う。
課題 今後の対応方針	いじめ防止対策推進委員会については、今後も計画的に実施することにより、いじめ防止のための対策を学校に周知していけるよう、努めていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(2) 豊かな心、健やかな体の育成
施策の方向	④心身の健康の保持増進
主な取組	1 学校保健の充実 2 新体力テストの実施と結果の活用 3 感染症に関する指導の充実 4 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化 5 ヤングケアラーの周知・支援
目標	新体力テストを実施し、その結果を分析することで児童生徒の体力向上に役立てていきます。部活動では白岡市部活動指導のガイドラインに基づいた活動を推進していきます。 また、友人関係や進路、学校生活に悩む児童生徒だけではなく、保護者も教育相談を行えるさわやか相談員を各中学校に配置するほか、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも配置します。ヤングケアラーの周知・支援なども含め、教育相談体制の充実を図っていきます。
事業実績・成果	1 学校保健の充実 学校保健の充実を図るため、白岡市小・中学校体力向上推進委員会養護部会における、健康診断結果の取りまとめを行いました。今後は、年度末までに市内小・中学校に周知する予定です。 このことにより、各校の状況と市平均を比較するとともに、保護者への啓発や児童生徒への指導に生かしています。 ・白岡市小・中学校体力向上推進委員会の開催 2 新体力テストの実施と結果の活用 新体力テストを実施するとともに、白岡市小・中学校体力向上推進委員会にて結果の分析を行いました。 このことにより、白岡市及び自校の課題を把握し、児童生徒の更なる体力向上に向け、各校において実践することができました。 ・新体力テストの全小・中学校による実施 ・白岡市小・中学校体力向上推進委員会における結果分析 3 感染症に関する指導の充実 文部科学省、埼玉県からの通知を各校へ周知するとともに、学級閉鎖を行うにあたっては、基準を明確にし、管理職との連携を図り、適切に判断・対応を行いました。 このことにより、各校における感染症の拡大を未然に防ぐことができました。 4 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化【重点】 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを小・中学校に適切に配置しました。 このことにより、小・中学生や保護者からの相談に対応し、いじめ等の早期発見・早期解決の一助となりました。 ・支援相談員（全小学校に配置 6名） ・さわやか相談員（全中学校に配置 4名） ・スクールカウンセラーの配置（小学校2名、中学校に2名） ・スクールソーシャルワーカーの配置（教育支援センターに県費・市費兼務1名） 5 ヤングケアラーの周知・支援 国・県のヤングケアラーに関する通知を各校に周知しました。 また、令和6年8月6日（火）に春日部ふれあいキューブで行われた「令和6年度ヤングケアラー支援のための教育・福祉合同研修会」に指導主事と教職員が参加し、ヤングケアラーに関する支援方法及び児童生徒への理解を深めることができました。

達成度	A
学識経験者の意見	コロナ収束後であってもインフルエンザ等他の感染症を含め基本的な対策を怠ることなく、子ども達が互いのぬくもりを感じながら本当にふれあいのある学校生活を送れる時間が続くことを願うばかりである。今後も感染症に関する指導の充実に確実に取り組んでもらいたい。 ヤングケアラーの問題は現在喫緊の社会問題となっている。教職員研修を一層充実させ、教職員のみならず生徒にも理解を深めさせるよう継続的に取り組んでほしい。また、学校と関係機関が密接に連携し、児童生徒の家庭状況を把握することも積極的に進めてほしい。
課題 今後の対応方針	子どもたちの体力向上、運動に親しむことが課題です。コロナ禍移行に、思うように活動できなかった時期を乗り越え、自校の課題を明確にした体育授業を行っていきます。 相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るために、適切な人員の配置と活用に取り組みます。 また、ヤングケアラーについては、子どものつぶやきに注意しながら、教員が積極的に児童生徒に関わっていきます。
評価結果	A
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(3) 教職員の資質・能力の向上
施策の方向	①教職員の資質・能力の向上
主な取組	1 人事評価制度を活用した人材育成や能力の向上 2 教職員を対象とした I C T、情報管理等に関する研修 3 年次別研修による指導力向上 4 教職員の服務に関する研修会の実施 5 白岡市教育の日の実施
目標	教職員を対象とした I C T、情報管理等に関する研修などの実施や、年次別研修の充実など、教職員の資質・能力の向上を図ります。また、人事評価制度を活用し、人材育成に努めます。 児童・生徒、保護者、地域から信頼される学校を目指し、教職員の不祥事根絶に向け、服務に関する研修を行います。
事業実績・成果	1 人事評価制度を活用した人材育成や能力の向上 市内小・中学校の校長においては、学校経営が適切に行われているかどうか、年間 3 回教育長、教育部長、教育指導課長と校長による面談を行いました。 このことにより、人事評価制度を活用し、人材育成や能力の向上を図ることができました。 ・当初面談 令和 6 年 5 月に実施 ・中間申告面談 令和 6 年 1 0 月に実施 ・達成状況面談 令和 7 年 2 月に実施 2 教職員を対象とした I C T、情報管理等に関する研修 教職員を対象とした I C T、情報管理等に関する研修（ipad活用事例研修）について、令和 6 年 8 月 2 日に実施しました。 このことにより、1 人 1 台端末の活用 4 年目（令和 6 年度）においても、さらなる利活用を図ることができました。 3 年次別研修による指導力向上 各小・中学校とも、新採用、2 年次、7 年次にあたる教員及び臨時的任用教員・任期付教員（※本市で初めて任用された者）を対象に、指導力の向上を図るため、教科や道徳、特別活動についての研究授業を行いました。 このことにより、新採用、2 年次、7 年次にあたる教員等の指導力向上を図ることができました。 4 教職員の服務に関する研修会の実施 教職員の服務に関する研修会については、夏季休業の時期に合わせて市内すべての小・中学校に指導主事が訪問し、教職員に対して直接、不祥事防止など服務に関する指導を行いました。 このことにより、教職員一人一人が不祥事をより自分事として捉えるようになりました。 5 白岡市教育の日の実施 白岡市教育の日の実施については、1 1 月 1 日に、西小学校及び白岡東小学校において、研究発表会を行いました。市内すべての小・中学校教員が授業を参観するとともに研究協議会や指導主事による指導・講評も行われました。 また、8 月 2 1 日（水）に教職員全員研修会を実施し、次年度の発表校の中間発表を行い、指導・講評を行いました。 このことにより、西小学校及び白岡東小学校の実践を他校においても活かすことができました。
達成度	A

学識経験者の意見	G I G A スクール構想を推進する上で、教職員の I C T、情報管理（含セキュリティ研修）研修は欠かすことができない。本市では計画的に開催し、スキルアップを図っていることを評価する。さらには、授業の中での端末利用が「個別最適な学び」と「対話による協働的な学び」との相乗効果を生むような活用のあり方を十分に研修してほしい。 教員の質の低下が叫ばれる中、若手教員の育成は重要課題である。本市では新採用者、2 年次、7 年次にあたる教員の指導力を高めるため、研究授業を中心とした実践的研修を実施しており、このことは評価できる。今後、授業研究を中心に「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを一層深める研修となることを願う。また、中堅教員対象のミドルリーダー育成をねらいとした研修の一層の充実にも期待するところである。 白岡市教育の日の研究発表会が再開し、継続されていることは喜ばしいことである。他校、さらには異校種の授業を市内の全教職員が実際に参観して学べる機会は決して多くはない。そして、委嘱校の実践が他校にも着実に広がり定着することを強く望む。この取組は貴重であり、今後も着実に取り組んでもらいたい。
課題 今後の対応方針	「白岡市教育の日」の研究発表会については、今後も異校種の貴重な交流の機会となるよう実施し、より一層の充実を図っていきます。教職員の I C T 活用能力や授業力の向上のために、授業研究を中心とした実践的な研究の機会とします。
評価結果	A
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(3) 教職員の資質・能力の向上
施策の方向	②教職員の働き方改革の推進
主な取組	1 校務の I C T 化の推進や業務内容の精選 2 理科支援員、学校図書館支援員の配置 3 学校閉庁日の実施 4 持続可能な部活動の推進
目標	教職員が児童生徒と向き合うための時間や教職員自身の人間性や創造性を高める時間を確保し、より質の高い教育活動を実践することができるように支援します。そのために校務の I C T 化や業務の精選に取り組むことで勤務時間の適正化を図ります。 各支援員の配置により、教職員の業務の負担軽減を行います。 中学校の部活動については、1 1 月から市内の全ての中学校で休日に行っている部活動を全て地域移行します。
事業実績・成果	1 校務の I C T 化の推進や業務内容の精選【重点】 8 月 2 日（金）に市内小・中学校の各教職員を対象に基本的な使い方や便利な使い方について研修を行いました。 このことにより、校務の I C T 化の推進や業務内容の精選について共通理解を図り、各校の実践に生かすことができました。
	2 理科支援員、学校図書館支援員の配置 市内小・中学校に適切に配置し、授業準備や片付け、図書館整備などを行っています。 このことにより、教職員の負担軽減となりました。 ・理科支援員・・・市内全小学校に配置（3 名） ・学校図書館支援員…市内全小・中学校に配置（3 名）
	3 学校閉庁日の実施【重点】 8 月 1 0 日～8 月 1 6 日及び県民の日である 1 1 月 1 4 日を、学校閉庁日としています。 このことにより、更なる教職員の負担の軽減を図ることができました。
	4 持続可能な地域クラブ活動の推進【重点】 令和 6 年 1 1 月から、市内全ての中学校で休日に活動する全ての部活動の地域移行を行いました。 また、令和 7 年 1 月から受益者負担を導入する予定であり、持続可能な地域クラブ活動に向けて事業を進めております。 兼職兼業で指導したいという教職員も複数人いるが、外部の指導者が指導することにより、教職員の働き方改革の推進を図ることができました。
達成度	A
学識経験者の意見	教職員の働き方改革は、国をあげて早急に解決していかなければならない課題である。本市は、業務内容の精選に早くから取り組んできており、実績がある。とはいえ、中学校では部活動の指導が教職員にとって、心身の負担を強いていることは過去から現在においても否定できない。そのような課題を受け、本市では県内においていち早く 3 年前から持続可能な部活動の推進に取り組んできている。今年度、全中学校で全部活動が地域クラブとして移行できたことを高く評価する。部活動を地域クラブへと移行すれば、それで中学校教職員の働き方改革が完結するわけではないが、大きな歩みであり、今後も研究実践を重ね、生徒も保護者も教員も納得できる形の地域クラブを実現していかなければならない。そうしてこそ初めて生徒としっかりと向き合う時間が確保され、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに勤しむことができる。一層の加速感をもって取り組んでほしい。

課題 今後の対応方針	校務のＩＣＴ化の推進（校務支援システムの導入・会議資料等のペーパーレス化等）によるさらなる業務改善や働き方改革を進めていきます。 専門性の高い教員・支援員を配置することによる質の高い教育の提供と、教職員の負担軽減や子供と向き合う時間の確保を行っていきます。 休日の部活動における段階的な地域移行を推進します。地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」を目指します。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成
施策の方向	①家庭・地域・学校の連携・協働
主な取組	1 学校運営協議会の設置と充実 2 学校運営協議会間の連絡体制の構築 3 学校応援団活動の推進 4 幼保小連絡会 5 持続可能な部活動の推進 6 学校ホームページによる情報発信の充実 7 学校公開の実施 8 「広報しらおか」等による情報発信の充実
目標	各学校のホームページや「広報しらおか」等による情報発信を充実させるとともに、学校公開を実施し、地域に開かれた学校づくりを行います。学校応援団の活用や学校運営協議会の設置と充実、学校運営協議会間の連絡体制の構築など、家庭・地域との連携・協働を図ります。幼稚園・保育所・小学校の連絡会を実施するなど、接続期の情報交換を充実させていきます。 また、休日の部活動の地域移行を推進し、専門性を有した地域人材を活用することで、生徒がより専門的な指導を受けられるようにします。
事業実績・成果	1 学校運営協議会の設置と充実【重点】 子どもたちをよりよく育てるための学校を応援し、地域の実情を踏まえた特色のある学校づくりを進めるため、全ての学校に学校運営協議会を設置し、年間3～4回の会議を行いました。 このことにより、学校における地域住民との連携・協働体制を組織的・継続的に確立することができました。第1回の開催の際には、指導主事が会議に参加し、学校運営協議会の趣旨等について説明を行うことで、共通理解を図りました。 2 学校運営協議会間の連絡体制の構築【重点】 学校運営協議会間の連絡体制を構築するため、教育委員会が主体となり、各校の学校運営協議会をつなぐ働きかけを行いました。 このことにより、共通理解を図ることができ、各校の学校運営協議会の充実を図ることができました。会議実施後、各校が実践報告書を提出し、全校で共有しました。優良事例のみならず、上手いかなかった事例についても共有し、今後に生かしていくことができました。 3 学校応援団活動の推進 学校応援団活動を推進するため、国・県の通知の周知を行いました。 このことにより、保護者や地域住民による学校の学習活動、安心・安全確保、環境整備などについて協力・支援の充実を図ることができました。 4 幼保小連絡会 幼・保・小の連携については、国・県通知（子育ての目安「3つのめばえ」）を周知するとともに、アプローチカリキュラム（幼稚園・保育所等における5歳児の1月～3月）、スタートカリキュラム（小学校第1学年の4～6月）を作成しています。 このことにより、幼稚園・保育所と小学校とのスムーズな接続を図ることができました。 ・幼稚園・保育所、小学校によるアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの作成・見直し

事業実績・成果	5 持続可能な部活動の推進【重点】（再掲） 令和6年11月から、市内全ての中学校で休日に活動する全ての部活動の地域移行を行いました。 また、令和7年1月から受益者負担を導入する予定であり、持続可能な地域クラブ活動に向けて事業を進めております。 兼職兼業で指導したいという教職員も複数人いるが、外部の指導者が指導することにより、教職員の働き方改革の推進を図ることができました。
	6 学校ホームページによる情報発信の充実 各校において適時発信をしています。人事評価に係る面談においても、評価領域Ⅱ「開かれた学校づくり」の目標・方策等を確認し、適切に情報発信が行われるよう指導をしています。 このことにより、学校ホームページによる発信が適切に行われ、「地域とともにある学校づくり」が推進されています。
	7 学校公開の実施 学校公開の実施については、各校が創意工夫し、行事の公開や授業の公開など、適切に学校公開を行うことができました。
	8 「広報しらおか」等による情報発信の充実 「広報しらおか」等による例年の情報発信だけでなく、教育指導課のホームページにおいて、教育に関わる情報を広く市民に周知しています。 このことにより、学校教育について、広く市民に周知することができました。
達成度	B
学識経験者の意見	全小中学校に学校運営協議会が設置され、定期的に会議を開催し、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりの推進に大きく寄与している。また、教育委員会が主体となって各学校運営協議会間をつなぐ役割を果たした。このことは高く評価できる。 今後は、その充実を目指し一層盤石な組織として発展することを期待する。そのために、一人でも多くの保護者、地域住民に正しく深い理解をしてもらうための啓発活動を継続的に行っていくことが大切であると考えます。
課題 今後の対応方針	全小中学校に設置となった学校運営協議会については、今後も定期的な会議の開催により、家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成を目指していきます。学校公開やホームページ、広報しらおかを活用した情報発信については、教育委員会と学校が連携し、更なる充実を図っていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成
施策の方向	②ふるさと意識の醸成
主な取組	1 埼玉の子ども70万人体験活動 2 白岡歴史・史跡研修会 3 小学校社会科副読本「しらおか」の活用 4 大学と連携した給食メニュー開発
目標	小学校社会科副読本「しらおか」を活用し、ふるさと白岡に対する理解を深める教育の充実に図ります。白岡歴史・史跡研修会において、市内に着任した初任者を対象に白岡の歴史や文化遺産に触れる研修を実施し、教育の充実へ繋がります。 加えて、大学と連携して開発した、「SDGsの視点も踏まえた地場産物を活用したメニュー」を児童生徒に提供し、地場産物について触れる機会を増やし、ふるさと意識の醸成を図ります。 また、提供したメニューの内容を再確認し、ブラッシュアップしていきます。
事業実績・成果	1 埼玉の子ども70万人体験活動（再掲） 中学校における職場体験チャレンジや、全ての小・中学校で行われているみどりの学校ファーム等で体験活動を実施しました。 このことにより、思いやりの心や規範意識、学習意欲、目的意識、望ましい勤労観・職業観を育むなど、豊かな人間性や社会性など「生きる力」の基礎を築くことができました。 2 白岡歴史・史跡研修会 7月26日、初任者を対象に、生涯学習課担当者による「ふるさと白岡」に係る研修を行いました。 このことにより、児童生徒を指導する教職員自ら白岡市の歴史に触れることで、ふるさと意識の醸成を図ることができました。 3 小学校社会科副読本「しらおか」の活用 社会科副読本編集委員会を2回開催し、「ICTの効果的な活用」、「年間指導計画の充実」に向け、取り組みました。 このことにより、小学3・4年生に対して、学習指導要領に則った社会科の授業を行うことができました。 また、副読本のデジタル化を推進し、今年度からデジタル副読本として運用し、活用することができました。 4 大学と連携した給食メニュー開発 女子栄養大学学校給食・食育研究室と連携し、令和5年度に開発した、SDGsな食品として注目されている「大豆ミート」を使用したメニュー3品を市内小中学校の給食で提供しました。 (1) 大豆ミートビーンズ（10月1日） (2) 大豆ミートのそばろ丼（11月13日） (3) 大豆ミートの麻婆豆腐（12月2日） 10月1日、12月2日には、女子栄養大学学生が学校を訪問し、給食室の見学やクラスでの給食喫食を通して実際に開発メニューの提供を見てもらうことができました。 また、児童・生徒へは給食日より献立表、給食時間の放送にて、大豆ミートのメニューや地場産物を使用したメニューの紹介をしました。 メニュー提供後には、各学校栄養士に児童生徒の喫食状況や分量変更などのアンケートを実施し、今後のメニューのブラッシュアップに役立てます。 このことにより、児童・生徒が地場産物やSDGsについて触れる機会があり、ふるさと意識の醸成が図られました。
達成度	B

学識経験者の意見	児童にふるさと意識を身に付けさせるためには、小学校３・４年生での社会科授業で郷土理解を深めさせるところが大きい。とりわけ社会科副読本「しらおか」の活用は大切である。副読本の編集に際し、編集委員会を定期的に開催し現場の教員の声を反映させて編集していることは意義がある。特に、県内でもいち早くデジタル版を作成し、それをタブレット端末にインストールして活用していることが評価できる。 女子栄養大学学校給食・食育研究室と連携し、地場産物やＳＤＧｓとしての食材である「大豆ミート」を使用した献立を給食で提供することで、児童・生徒のふるさと意識の醸成を図ったことは評価できる。
課題 今後の対応方針	小学校社会科副読本「しらおか」の活用については、今後も編集委員会を定期的に開催していくことにより、教職員の声を反映させ、子ども達の学びが深まる資料となるよう、充実を図っていきます。埼玉の子ども７０万人体験活動については、地域の人材を活用し、充実した活動となるよう、実施方法や内容について検討を進めていきます。 大学と連携した給食メニュー開発については、物価高騰など、社会情勢を注視しながら、地場産物に触れる献立を考案するよう研究していく必要があります。 今後は、市施行記念や学校給食月間など、ふるさと白岡と関わりのある際に、開発したメニューを提供していけるよう努めてまいります。
評価結果	B
担当課	教育指導課・教育総務課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備
施策の方向	①教育環境の整備・充実
主な取組	1 1人1台端末の利活用に向けた学校の通信環境の整備 2 小・中学校施設の計画的な改修などを実施 3 安全確保のための学校施設点検の実施
目標	学校図書館については、蔵書の質・量の両面から充実を図り、児童生徒の読書活動や調べ学習などに資するものとしていきます。 児童・生徒が安心安全に学校生活を送ることが出来るように市職員による安全点検（月2校）を継続して実施し、危険箇所等がある場合には未然に防ぐように努めます。 また、学校施設の老朽化の視点も踏まえた学校適正規模・適正配置計画の策定を進めていきます。
事業実績・成果	1 1人1台端末の利活用に向けた学校の通信環境の整備 学校の通信環境の整備のため、学校からの修理依頼等に対し、GIGAスクールサポーターやICT支援員が適切に対応しました。 このことにより、児童生徒が1人1台端末を活用した学習を進めることができました。 (1) GIGAスクールサポーター1名 (2) ICT支援員3名 (3) GIGAスクールサポーター（繁忙期対応）3名任用 2 職員による安全点検の実施 月2校のペースではないが、職員による安全点検を1校あたり2回実施しました。 危険箇所に対する応急処置や修繕の発注へ繋げることができました。また懸念事項についての経過観察を実施しました。 このことにより、児童生徒の教育環境の安全性が保たれました。 3 学校規模適正化 ○教育委員会事務局内部で「白岡市立学校の適正規模・適正配置に関する計画策定の基本方針（案）」を作成し、中学区の学校運営協議会で説明しました。また、職員に対して意見聴取を、一般にはパブリックコメントを実施しました。 ・篠津中学校区（篠津小・白岡東小・篠津中） 11月18日 ・菁莪中学校区（菁莪小・菁莪中） 12月11日 ・南中学校区（南小・南中） 12月5日 ・白岡中学校区（大山小・西小・白岡中） 11月29日 ・職員に対する意見聴取 令和7年1月9日～2月10日 ・パブリックコメント実施 令和7年1月10日～2月10日 ○令和7年2月8日に、魅力ある学校づくりシンポジウムを開催し、パネリストと地域住民等と意見交換を実施しました。 ○公募型プロポーザル方式により、本体計画策定のための支援業務を発注しました。現在は、民間の知見を活かし市立学校の現状と課題の把握を進めています。 これらのことにより、より良い学校教育環境の実現に向けて前進することができました。
達成度	B
学識経験者の意見	学校規模適正化に向けて、計画策定の基本方針を作成し、学校運営協議会での説明やパブリックコメントを実施するなど実現へ向けて確実な取組を始めるとともに、教育シンポジウムを開催して市民への啓発を行ったことなど大きく前進した。このことを高く評価する。

課題 今後の対応方針	学校の通信環境の整備のため、学校からの修理依頼等については、G I G Aスクールサポーター1名及びI C T支援員1名で対応していますが、年度末の新年度に向けた更新作業等の繁忙期については、G I G Aスクールサポーター2名を追加で任用するとともに、端末更新作業マニュアルを作成する等、移行作業を適切に行った結果、スムーズに整備を進めることができました。 施設老朽化という課題に対しては、継続した安全点検を実施し児童・生徒が安全安心に学校生活を送ることができるように努めます。 学校適正規模・適正配置計画については、魅力ある学校づくり推進室が事務を引き継ぎ、令和8年度中に計画を策定することを目標とします。計画策定のため、計画の基礎となる現況把握などに努め、連携していきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課・教育総務課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備
施策の方向	②安全安心の確保
主な取組	1 安全教育の推進 2 各校での危機管理マニュアルの見直し 3 実効的な避難訓練の実施 4 防犯パトロールと防災しらおかの放送による安全の呼びかけ 5 学校メール配信システムによる不審者情報等の周知 6 子ども110番の家の設置の推進 7 スクールガードリーダー・防犯ボランティアによる見守り
目標	頻発する自然災害や感染症対策等を踏まえ、各校での危機管理マニュアルの見直しを行うとともに、実効的な避難訓練を実施するなど児童生徒が自らの命を守ることができるよう防犯・防災教育を推進していきます。 また、スクールガードリーダー、防犯ボランティアなどとともに、地域ぐるみで子どもたちの安全を守ることができるようにします。
事業実績・成果	1 安全教育の推進【重点】 安全教育の推進について、市内小・中学校に国・県通知の内容を周知するとともに、校長会・教頭会においても、学校の施設・設備を含めた安全管理の徹底について指導を行いました。 このことにより、現時点では大きな事故もなく、学校運営が行われています。 また、学校においては、学級活動や保健体育の授業、交通指導員による交通安全教室（横断歩道の渡り方、自転車の乗り方）など、学校教育全体で安全教育が行われています。
	2 各校での危機管理マニュアルの見直し 各校での危機管理マニュアルの見直しについて、市内小・中学校に国・県通知の内容を周知するとともに、校長会・教頭会においても、学校の危機管理マニュアルの定期的な見直しを図るよう指導を行いました。見直し後のマニュアルは、教育指導課で確認しています。 このことにより、現時点では大きな事故もなく、学校運営が行われています。
	3 実効的な避難訓練の実施 市内小・中学校に国・県通知の内容を周知するとともに、校長会・教頭会においても、内容の見直し等において指導を行いました。 このことにより、より実効性のある避難訓練（休み時間における地震）を実施することができました。
	4 防犯パトロールと防災しらおかの放送による安全の呼びかけ 防犯パトロールと防災しらおかの放送による安全の呼びかけについて、今年度教育指導課職員による防犯パトロールは行っておりませんが、防災しらおかの放送については、市内小学校代表児童による録音・放送を行い、下校後の安全について注意喚起を行っています。 このことにより、児童生徒の安全確保について、児童生徒や保護者、地域住民への啓発を図ることができました。
	5 学校メール配信システムによる不審者情報等の周知 学校メール配信システムによる不審者情報等の周知については、教育指導課に入った不審者情報等を学校に周知し、学校から保護者に対しメール配信を行っています。 このことにより、保護者への啓発を図ることができました。

事業実績・成果	6 子ども１１０番の家の設置の推進 校長会・教頭会において、児童生徒へ「子ども１１０番の家」の理解・促進を図るよう指導しています。 このことにより、児童生徒一人一人が、登下校時の安全確保（自分の身は自分で守る）について理解を深めました。 ・子ども１１０番の家登録件数 ３４８件（令和６年３月３１日現在）
	7 スクールガードリーダー・防犯ボランティアによる見守り スクールガードリーダー・防犯ボランティアによる見守りについて、市内小・中学校に国・県通知の内容を周知するとともに、スクールガードリーダーによる見守り報告を確認し、実効性のある取組となるよう指導を行っています。 このことにより、さらなる安心・安全への体制を整えることができました。 ・市内全ての小学校に、１人ずつスクールガード・リーダーを配置
達成度	B
学識経験者の意見	教育委員会が主体となって、校長会・教頭会において、施設設備を含めた安全管理の徹底について指導を行ってきたことで大きな事故なく学校運営が行われていることを評価する。また、学校教育全体で児童生徒への安全教育が行われ、大きな事故が起きていないことを評価する。しかしながら、今後さらに予想される交通事情の悪化を考えると、小学校高学年から中学生の自転車の乗り方の啓発指導の充実は一層必要である。
課題 今後の対応方針	子どもたちの安心・安全のため、引き続き地域の方々の協力を得ながら、今後も防犯パトロールなどの充実を図り、子どもたちを見守っていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(6) 多様なニーズに応える教育活動
施策の方向	①特別支援教育の充実
主な取組	1 特別支援学級の整備 2 通級指導教室の充実 3 教育補助員の活用・拡充 4 指導主事等による巡回相談 5 就学支援委員会の開催 6 インクルーシブ教育の推進 7 特別支援学校のセンター的機能の活用
目標	県立特別支援学校のセンター的機能を活用し、特別な支援が必要な児童生徒への支援方法の充実、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、特別支援学級の整備や通級指導教室の充実を推進します。
事業実績・成果	1 特別支援学級の整備 各小・中学校に特別支援学級を適切に設置するため、学校との連携や保護者との就学相談を実施しました。 このことにより、各校において、児童生徒の特性に応じた特別支援学級を整備することができました。 ・篠津小（知的学級2、自閉情緒学級1、難聴言語通級指導教室1） ・菁莪小（知的学級1、自閉情緒学級1） ・大山小（知的学級1、自閉情緒学級1） ・南 小（知的学級2、自閉情緒学級2、肢体不自由学級1） ・西 小（発達障害・情緒障害通級指導教室1、知的学級2、自閉情緒学級3） ・白岡東小（発達障害・情緒障害通級指導教室1、知的学級1、自閉情緒学級1） ・篠津中（知的学級1、自閉情緒学級1） ・菁莪中（知的学級1、自閉情緒学級1） ・南 中（知的学級1、自閉情緒学級1） ・白岡中（知的学級1、自閉情緒学級1）
	2 通級指導教室の充実 通級指導教室の充実を図るため、通級指導教室設置校（篠津小、西小、白岡東小）と、児童の在籍校で指導の記録を共有しました。 このことにより、現在の状況について在籍校が適切に把握することができ、対象児童への指導・対応に生かすことができました。 ・篠津小（難聴言語通級指導教室） ・西小（発達障害・情緒障害通級指導教室） ・白岡東小（発達障害・情緒障害通級指導教室）
	3 教育補助員の活用・拡充 補助員等を適切に配置・活用できるよう、教育補助員が、毎日業務内容を記録するとともに月末には教育指導課において確認しています。内容によっては、校長に指導する等、より適切な運用を行いました。 このことにより、児童生徒への指導・対応が適切に行うことができました。 ・生活補助員（小・中学校）23名 ・支援相談員 6名 ・さわやか相談員 4名
	4 指導主事等による巡回相談 指導主事や就学支援委員会委員による巡回相談（児童生徒の状況確認、教職員への指導）を行いました。 このことにより、特別に支援を要する児童生徒への適切な指導・対応について共通理解を図ることができました。 ・全小・中学校に対して実施（小学校11回、中学校4回）

事業実績・成果	5 就学支援委員会の開催 就学支援委員会を年間4回開催しました。 このことにより、児童生徒一人一人の教育的ニーズ（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室）に応ずることができました。
	6 インクルーシブ教育の推進 インクルーシブ教育の推進を図るため、交流学級及び支援籍学習を行いました。 このことにより、より一層特別支援教育への理解を深めることができました。 ・各学校における交流学級の実施 ・支援籍交流の実施（青莪中学校、白岡中学校、南小学校、西小学校）
	7 特別支援学校のセンター的機能の活用 特別支援学校のセンター的機能を活用するため、久喜特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと連携を図りました。 このことにより、児童生徒の現状を把握し、指導・対応について、教職員へ助言等を行うことができました。 ・全小・中学校への巡回相談の実施（小学校11回、中学校4回）
	8 特別支援教育研修会 奥山こどもクリニック院長の奥山力氏を指導者として招き、医療の視点から見た特別な配慮が必要な児童生徒への対応に関する研修を行いました。 事例に基づいた支援会議を行うことで、支援方法や保護者や関係機関との連携について理解が深まりました。 ・第1回（9月5日）第2回（10月17日）第3回（11月28日） 第4回（1月30日）第5回（2月27日）
達成度	B
学識経験者の意見	全小・中学校に特別支援学級を設置し、教育補助員の活用や県立特別支援学校との連携、計画的な巡回指導等により特別支援教育の充実を図っていることを評価する。また、近年の状況を踏まえて通級指導教室を3学級設置し、対象児童の指導が適切に行われていることを評価する。一方でこの教室を担当する教員には高い専門性が必要なので継続的に研修を行ってほしい。さらに、長期的視点をもって担当できる教員の育成に努めてほしい。
課題 今後の対応方針	通級指導教室「こすも」「すばる」、言葉の教室の3つを担当する教員は、高い専門性が求められます。常日頃から研修への参加や、自己研鑽を積まなくてはなりません。また、全小・中学校の特別支援学級を担当する教員にも同じことが言えます。子どもたちを取り巻く環境、社会情勢の変化に適応することが求められています。 今後も特別支援学校のセンター的機能を活用した巡回相談や特別支援教育研修会を活用しながら、担当指導教員の資質・能力の向上に努めてまいります。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(6) 多様なニーズに応える教育活動
施策の方向	②不登校児童生徒への支援
主な取組	1 教育支援センターの充実 2 教育相談の充実 3 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化
目標	様々な理由から不登校となっている児童生徒やその保護者、教職員からの相談に応じ、適切な支援を行っていくため、引き続き相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制の充実を図ります。 また、不登校児童生徒の社会的自立に向けた集団適応指導、学習指導等を行い、教育支援センターの充実に努めます。
事業実績・成果	1 教育支援センターの充実【重点】 教育支援センターの充実を図るため、市内小・中学校の不登校児童生徒数や各校の教育相談件数等を鑑み、適切な人員を配置しました。また、令和4年度から常勤の所長を任用するとともに、長期休業中においても、相談業務を行いました。 このことにより、教育支援センターにて、児童生徒の学習支援、保護者相談、発達検査等、適切な運営を行いました。 ・現在23名の児童生徒が通室 ・所長1名、支援員5名・臨床心理士2名、スクールソーシャルワーカー1名を配置
	2 教育相談の充実（再掲） 教育相談の充実を図るため、各校で開催されている教育相談連絡会に指導主事が参加しました。 また、電話や面談により保護者と教育相談を行いました。 このことにより、生徒指導・教育相談上、支援を要する児童生徒を把握するとともに、指導・対応について助言を行うことで、早期の解決を図ることができました。 ・教育相談連絡会の実施（小学校18回、中学校12回、合計30回）
	3 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化【重点】（再掲） 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを小・中学校に適切に配置しました。 このことにより、小・中学生や保護者からの相談に対応し、いじめ等の早期発見・早期解決の一助となりました。 ・支援相談員（全小学校に配置6名） ・さわやか相談員（全中学校に配置4名） ・スクールカウンセラーの配置（小学校2名、中学校に2名） ・スクールソーシャルワーカーの配置（教育支援センターに県費・市費兼務1名）
達成度	B
学識経験者の意見	不登校児童生徒数の増加は、国全体で見ても大きな課題となっている。本市では教育相談体制の充実を図って対応しているが、特に教育支援センターの役割は大きい。適切な人員配置や常勤の所長を任用するなど、着実な運営ができていることを評価する。

課題 今後の対応方針	不登校児童生徒数は年々増加しています。不登校の要因は様々であり、個に応じた対応をしていくことが求められます。 今後も教育相談体制を見直し、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーをはじめ、各学校との連携を強化していきます。また、教育支援センターと密に連携を取り、不登校児童生徒の支援の拠点として機能するように対応していきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(6) 多様なニーズに応える教育活動
施策の方向	③外国人児童生徒・帰国児童生徒への支援
主な取組	1 児童生徒の日本語指導の補助
目標	日本語指導が必要な児童生徒に対して、日本語指導教員及び日本語指導補助員を配置できるよう必要な人材を確保し、支援の充実を図ります。
事業実績・成果	1 児童生徒の日本語指導の補助 児童生徒の日本語指導のため、県費の日本語指導教員 1 名、市費の会計年度任用職員を 3 名、5 校に配置しました。 このことにより、対象児童生徒の日本語活用能力の向上を図ることができました。 ・篠津小学校（県費日本語指導教員 1 名）・・・対象児童 7 名（1 年 2 名、3 年 2 名、5 年 1 名、6 年 2 名）週 1 回～週 8 回 1 時間ずつ ・菁莪中学校（会計年度任用職員 1 名）・・・対象児童 1 名（3 年）週 1 回 1 時間 ・南 小学校（会計年度任用職員 1 名）・・・対象児童 1 名（2 年）週 2 回 1 時間ずつ ・篠津中学校（会計年度任用職員 1 名）・・・対象生徒 1 名（1 年）週 1 回 2 時間 ・南 中学校（上記の学校と兼務）・・・対象生徒 3 名（1 年 1 名、3 年 2 名）週 1 回 1 時間ずつ
達成度	B
学識経験者の意見	本市においても外国人児童生徒数は年々増加している。対象児童生徒が一日も早く級友との仲を深め、学級に適応できるよう日本語指導補助員を適切に配置していることを評価する。今後は、多様化が一層進むことが予想されるので多くの言語に対応できるよう人材を確保しておくことが望まれる。
課題 今後の対応方針	外国人児童生徒数は年々増加しており、通常の学校生活においても言葉の壁により学校生活に支障をきたしている児童生徒が増えてきています。今現在、週に 1～2 回個別指導により日本語を指導する時間を設けていますが、今後はその指導によってどの程度の成果があったのか、またどのように子供が変容したかについても把握し、更なる指導の向上につなげていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(6) 多様なニーズに応える教育活動
施策の方向	④経済的支援
主な取組	1 就学援助制度 2 特別支援教育就学奨励制度 3 入学準備金貸付制度
目標	経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対して、就学援助制度、特別支援就学奨励制度、入学準備金貸付制度などの支援制度があります。これらの制度の周知に努め、保護者の経済的負担の軽減を図ります。
事業実績・成果	1 就学援助制度（白岡市就学援助費の受給者に臨時給付金支給事業を併せて実施） 経済的理由により、就学困難な児童生徒の保護者に対して、経済的負担を軽減するため、就学援助費を支給しました。 このことにより、経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者に対し、適切に支援することができました。 就学援助費【3月末日現在】 ・小学校（要保護児童数 8名、準要保護児童数 151名） 8,968,348円 ・中学校（要保護生徒数 2名、準要保護生徒数 78名） 7,934,091円 ・入学前支給（支給対象者数 28名） 1,597,680円 2 特別支援教育就学奨励制度 特別支援学級在籍の特殊性を考慮し、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、世帯の所得状況に応じ、就学奨励費を支給しました。 本制度については、特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対して制度の概要を通知し、周知に努めました。 このことにより、保護者の経済的負担の軽減を図ることができました。 ・小学校 1,695,089円（3月末見込）（3月末日現在57名） ・中学校 833,322円（3月末見込）（3月末日現在17名） 3 入学準備金貸付制度 広報しらおか11月号及びホームページにおいて貸付けのお知らせを掲載するとともに市立中学3年生の保護者全員にチラシを配布する等、制度の周知を図りました。12月16日から1月14日までの間、申請の相談及び受付を行いました。 入学準備金の調達が困難な方に経済的な支援の情報提供ができました。 2月3日に、審査会において高校入学に係る申請3件を審査し、貸し付けを決定しました。
達成度	B
学識経験者の意見	本市では、経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対して就学援助制度、特別支援教育就学奨励制度、入学準備金貸付制度などを講じて経済的支援を行っていることを評価する。 今後、市民・保護者へ制度の周知をあらゆる手段を講じて一層強く進めていくことが肝要である。

課題 今後の対応方針	就学援助制度については、義務教育の円滑な実施を図るため、真に援助を必要とする児童生徒の保護者に対して、必要な援助が適切な時期に受けられるよう、引き続き就学援助制度の周知に努めていきます。 特別支援教育就学奨励制度については、特別支援教育の普及奨励を図るため、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を図られるよう、引き続き就学奨励制度の周知に努めていきます。 入学準備金の調達が困難な方に必要な情報を届けることが出来るよう、引き続き広報しらおかや市公式ホームページで周知を図るととも、中学３年生の保護者にも周知を実施します。また、母子家庭への加算など、制度自体の見直しも検討します。
評価結果	B
担当課	教育指導課・教育総務課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実
施策の方向	①生涯学習活動の推進
主な取組	1 ペアーズ！しらおかの拡充 2 社会教育委員会議の開催 3 生涯学習情報の提供 4 社会教育関係団体の支援・利用促進 5 公民館講座の充実 6 生涯学習機能、図書館機能、資料館機能の連携
目標	ペアーズアカデミーや公民館講座のほか、生涯学習センター〔こもれびの森〕の各機能の連携による事業や関係機関との連携による事業を実施し、「広報しらおか」、市公式ホームページ及びSNSなどを活用して市民の多様なニーズに対応した学習メニューや生涯学習に関する情報の提供を推進します。 また、社会教育関係団体の支援や利用促進を図り、市民の生涯学習活動を推進します。
事業実績・成果	1 ペアーズ！しらおかの拡充【重点】 生涯学習事業の基幹となる、ペアーズアカデミーをはじめ、多種多様な内容の講座を開催することで、市民に対し広く学習機会を提供することができました。 (1) ペアーズアカデミー 5講座15回 延べ286名 (2) 大人の自然観察会 ひこべえの森 春の自然観察会 5月6日 7名 2 社会教育委員会議の開催 市の社会教育行政について、社会教育委員を通して、広く市民の意見を反映することができました。 社会教育委員会議の開催 【1回（ 7月 2日）】 【2回（10月17日）】 【3回（12月26日）】 【4回（ 3月13日）】 3 生涯学習情報の提供 「いつでも・どこでも・だれでも」楽しく学び合える生涯学習を推進しています。 市民の学習意欲の高まりと学習ニーズの多様化に応えるため、「広報しらおか」、市公式ホームページ及びSNSなどを活用して生涯学習情報の提供をしました。 また、ボランティア精神をふまえた指導者や市内で生涯学習活動をしている団体の情報を広く市民に提供できるよう「ペアーズバンク」を設置し、ペアーズバンクの情報を市公式ホームページに掲載し、生涯学習関連事業への市民参加を促進することができました。 (1) 「広報しらおか」、市公式ホームページ及びSNSなどを活用して生涯学習関連事業を案内するとともに、事業終了後に市公式YouTubeチャンネルにおいて、事業の様子を配信をしました。 (2) ペアーズバンク リーダー 延べ67名 サークル 40団体 4 社会教育関係団体の支援・利用促進 補助金の交付により、文化祭の開催や文連だよりの発行をすることができ、芸術・文化活動の充実、発展に寄与する活動を支援することができました。 ・社会教育関係団体補助金交付 【1団体（白岡市文化団体連合会）】

事業実績・成果	5 公民館講座の充実【重点】 地域の学習拠点として、これまでの講座参加者からのアンケートなどの意見を参考に様々な講座を開催するとともに、要望の多い講座を開催するなど、市民に多様な学習の機会を提供することができました。 (1) 公民館前期講座（6～9月） （全14講座、51回開催、延べ516名参加） <table><tr><td>ア 運動分野</td><td>4講座</td><td>計17回開催</td><td>延べ155名参加</td></tr><tr><td>イ 生活分野</td><td>2講座</td><td>計7回開催</td><td>延べ52名参加</td></tr><tr><td>ウ 趣味分野</td><td>2講座</td><td>計8回開催</td><td>延べ86名参加</td></tr><tr><td>エ IT分野</td><td>3講座</td><td>計11回開催</td><td>延べ146名参加</td></tr><tr><td>オ 夏休み子ども講座</td><td>2講座</td><td>計4回開催</td><td>延べ26名参加</td></tr><tr><td>カ 市民企画講座</td><td>1講座</td><td>計4回開催</td><td>延べ51名参加</td></tr></table> (2) 公民館後期講座（10～3月） （全18講座、計72回開催、延べ782名参加） <table><tr><td>ア 運動分野</td><td>7講座</td><td>計32回開催</td><td>延べ291名参加</td></tr><tr><td>イ 生活分野</td><td>1講座</td><td>計5回開催</td><td>延べ73名参加</td></tr><tr><td>ウ 趣味分野</td><td>6講座</td><td>計13回開催</td><td>延べ116名参加</td></tr><tr><td>エ IT分野</td><td>3講座</td><td>計18回開催</td><td>延べ253名参加</td></tr><tr><td>オ 市民企画講座</td><td>1講座</td><td>計4回開催</td><td>延べ49名参加</td></tr></table>	ア 運動分野	4講座	計17回開催	延べ155名参加	イ 生活分野	2講座	計7回開催	延べ52名参加	ウ 趣味分野	2講座	計8回開催	延べ86名参加	エ IT分野	3講座	計11回開催	延べ146名参加	オ 夏休み子ども講座	2講座	計4回開催	延べ26名参加	カ 市民企画講座	1講座	計4回開催	延べ51名参加	ア 運動分野	7講座	計32回開催	延べ291名参加	イ 生活分野	1講座	計5回開催	延べ73名参加	ウ 趣味分野	6講座	計13回開催	延べ116名参加	エ IT分野	3講座	計18回開催	延べ253名参加	オ 市民企画講座	1講座	計4回開催	延べ49名参加
	ア 運動分野	4講座	計17回開催	延べ155名参加																																									
イ 生活分野	2講座	計7回開催	延べ52名参加																																										
ウ 趣味分野	2講座	計8回開催	延べ86名参加																																										
エ IT分野	3講座	計11回開催	延べ146名参加																																										
オ 夏休み子ども講座	2講座	計4回開催	延べ26名参加																																										
カ 市民企画講座	1講座	計4回開催	延べ51名参加																																										
ア 運動分野	7講座	計32回開催	延べ291名参加																																										
イ 生活分野	1講座	計5回開催	延べ73名参加																																										
ウ 趣味分野	6講座	計13回開催	延べ116名参加																																										
エ IT分野	3講座	計18回開催	延べ253名参加																																										
オ 市民企画講座	1講座	計4回開催	延べ49名参加																																										
6 生涯学習機能、図書館機能、資料館機能の連携【重点】 生涯学習機能、図書館機能、資料館機能の連携した講座等の開催により、市民の生涯学習活動の推進を図ることができました。 (1) 生涯学習機能、図書館機能の連携 各講座実施時に関連図書の展示 (2) 生涯学習機能、資料館機能の連携 ア ペアーズアカデミー ・連携講座「暮らしを支えた木綿と生糸～紡ぎ、織りなす白岡遺産～」 11月7日、14日、28日 延べ54名 イ 親子おもしろミュージアム（ウィークエンドいきいき体験教室事業共同開催） ・藍のたたき染め教室 8月3日 11名 ・だるまさんを作ろう 2月8日 19名 (3) 図書館機能、資料館機能の連携 ギャラリー企画展 （暮らしを支えた木綿と生糸～紡ぎ、織りなす白岡遺産～）連携おはなし会 10月26日、11月9日 延べ24名																																													
達成度	B																																												
学識経験者の意見	生涯学習活動の中で「ペアーズアカデミー」や公民館講座などは、多様で地域にあった講座メニューを市民に積極的に提供していることを評価する。今後も趣味の講座をはじめ環境や人権、国際問題など今日的な課題も取り上げて取り組んで欲しい。 生涯学習情報の提供では、「生涯学習ガイド」がなくなったことは残念である。多様な年齢層の人たちにも情報を届ける手段として、インターネットや広報の充実、ポスター等の活用を一層工夫して欲しい。 白岡市文化団体連合会については、年々加盟団体や構成員が減少している傾向にある。少子高齢化の中で、文化団体支援のあり方等について検討する必要性が求められている。																																												
課題 今後の対応方針	引き続き、市民の多様なニーズに対応した学習メニューや生涯学習に関する情報提供を推進していきます。 また、中央公民館では、利用者・利用団体の減少が課題であるため、仲間づくり及びサークル化につなげられるような講座を開催していきます。 情報提供については、「生涯学習ガイド」に代わる手段として、今後はインターネットを活用するなど、確実な情報を分かりやすく届けられるよう、更なる研究を続けていきます。																																												
評価結果	B																																												
担当課	生涯学習課																																												

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実
施策の方向	②生涯学習施設・設備の充実
主な取組	1 生涯学習センターの適正な維持管理 2 中央公民館の適正な維持管理
目標	生涯学習センター〔こもれびの森〕及び中央公民館の適正な維持管理を行い、市民の生涯学習活動の場を提供します。幅広いニーズに対応したサービスの提供を図るとともに、家庭・地域・学校などと連携した生涯学習環境の充実に努めます。
事業実績・成果	1 生涯学習センターの適正な維持管理 (1) 生涯学習・地域コミュニティ・文化創造の拠点として、生涯学習センターの適切な管理運営を図ることができました。 ・令和6年度の入館者数 276,054名 (2) 自衛消防活動により火災等の被害を最小限にとどめるため、消防訓練を実施しました。 上半期 5月23日に、消防署の立会いによる消火訓練、通報訓練、避難訓練を実施しました。 職員に対する防災教育の効果が上がるとともに、初期消火をはじめとする自衛消防活動の重要性を認識することができました。 下半期 11月14日に消化訓練、通報訓練、避難訓練を消防署の立会いがない中で、実施しました。 職員に対する防災教育の効果が上がるとともに、初期消火をはじめとする自衛消防活動の重要性を認識することができました。 2 中央公民館の適正な維持管理 (1) 地域住民の生涯学習推進の拠点として、適切な管理運営を図ることができました。 利用者は、公民館で活動するサークルの会員の高齢化等による会員数の減少や新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うサークル活動の自粛等の影響により、サークル活動を休止した団体や解散した団体があることなどにより、昨年度と比較して減少しています。 ・令和6年度の来館者数 38,663名 (2) 火災等の被害を最小限にとどめ、安心安全な施設を目指すため、上半期（9月13日）及び下半期（3月14日）に、職員及び受付業務の派遣職員と合同で防災・消防訓練を実施しました。 消火器の設置場所や避難経路を再確認するなど、職員及び窓口担当者の防災意識向上につながりました。 (3) 災害時の指定避難所であることから、施設の老朽化が顕著なため、必要最小限の修繕を実施しました。 ・ロビー及び談話室の空調機更新（令和5年度繰越事業） ・音楽練習室の空調機更新 ・調理室シンク漏水修繕 ・灯油タンク更新 ・消防用設備修繕 ・音楽練習室の天井修繕
達成度	B
学識経験者の意見	生涯学習センター〔こもれびの森〕は生涯学習・地域コミュニティ・文化創造の拠点として親しまれ、広く利用されている。 一方、公民館においてはさまざまな講座やサークル活動に利用されているが、施設面では老朽化などの課題もある。公民館は多くの利用者がおり、また災害時の緊急避難場所でもあることから、必要な修繕や改修は怠らないよう配慮をお願いしたい。 両施設とも多くの利用者が安心安全に施設を利用できるように、今後も施設の適正な維持管理に務めていただきたい。また、消防訓練は今後も定期的に継続して実施していただきたい。

課題 今後の対応方針	生涯学習センター〔こもれびの森〕及び中央公民館ともに適正な維持管理を行い、市民の生涯学習の場を提供していきます。 また、市民が安心・快適に利用できる生涯学習の場としての環境を整備する必要があるため、細やかなメンテナンスを予定しています。 しかしながら、中央公民館については、開館から４５年経過し、施設の老朽化が顕著であることから、大規模改修等について検討していきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実
施策の方向	③図書館機能の充実
主な取組	1 計画的な資料の収集、提供 2 レファレンスサービスの充実 3 多様なニーズに対応したサービスの充実 4 バリアフリーサービスの充実 5 図書館資料、設備を活用した多種多様な学びの機会の提供 6 市民との協働による事業の実施
目標	情報収集の拠点として、効率的、計画的な資料の収集と提供を行うとともに、市民の誰もが利用しやすく、必要な情報を得られるよう、図書館サービスの充実を図ります。 社会や時代に即した図書のテーマ展示や、多種多様な学びの場の提供を行います。
事業実績・成果	1 計画的な資料の収集、提供 市民の幅広いニーズに対応する資料の収集・提供を行いました。 (1) 総資料数 170,689点 (2) 貸出人数 119,685人 (3) 貸出点数 412,458点 2 レファレンスサービスの充実 レファレンスサービスの提供により、市民の学習・研究活動を支援することができました。 レファレンス件数 2,868件 3 多様なニーズに対応したサービスの充実 予約資料の公民館受取サービスや返却ポストの設置のほか、新たに市内コンビニエンスストア2店舗における返却資料の受取サービスを開始し、利便性向上を図ることで、市民の図書館利用を促すことができました。また、図書館システム関連機器の更新を行い、システムのバージョンアップを行ったほか、スマートフォンで貸出等の手続きができるWEB利用者カードや、学習室のWEB予約サービスを導入し、利便性の向上を図りました。 (1) 予約資料の公民館受取サービスの実施 (2) 返却ポストの公共施設への設置 (3) コンビニエンスストアにおける資料返却サービスの実施 (4) 図書館だより「こもれび通信」の発行 5回（4月、6月、8月、10月、12月、2月） (5) 図書館システム関連機器の更新、システムのバージョンアップの実施 4 バリアフリーサービスの充実 読書補助具の設置や、図書館の利用支援により、様々な理由から図書館の利用や読書に障がいのある市民の読書活動を支援することができました。 (1) 読書補助具（リーディングトラッカー、リーディングルーペ）の設置 (2) 障がいを持つ利用者に対する図書館利用支援

事業実績・成果	5 図書館資料、設備を活用した多種多様な学びの機会の提供 東洋大学の講師派遣事業を活用した文学講座等、図書館に関連した講座の開催により、市民の生涯にわたる学習を支援するとともに、図書館利用を促進することができました。 また、今年度新たにファンファンシネマの上映作品を利用者の投票で決めるイベントを実施し、市民の図書館事業への関心を高めることができました。 (1) 文学講座（東洋大学講師派遣事業共催）「百人一首を味わう」 10月26日 39名 (2) 歴史講座「白岡市と近隣の古文書で見る江戸時代」 12月11日、18日 延べ34名 (3) ファンファンシネマ（映画観賞会） 14回 延べ413名 (4) ファンファンシネマ「みんなで決めよう！～2月上映作品～」 1回 (5) テーマ展示 ア 児童と一般を対象に季節や年間行事等とテーマとした図書の展示 イ 子ども司書や職場体験の中学生によるテーマ展示 (6) 日本工業大学との連携事業 「日本工業大学の先生がすすめる本」の展示（常設）
	6 市民との協働による事業の実施 図書館ボランティアの養成・連携強化を図るとともに、図書館ボランティアとの連携による事業を実施することで、地域に根ざした図書館サービスを提供することができました。 (1) 図書館ボランティアとの連携による事業の実施 ア おはなし会、ちいさい子のおはなし会 毎月第1～3金曜日、第2～4土曜日 イ こもれびの森まつり ウ 興善寺幼稚園図書館見学 1月16日 年長クラス66名 エ しらおか虹保育園図書館見学 2月13日 年長クラス21名 (2) 図書館ボランティアの養成 ア 図書館ボランティア体験講座 2月15日、22日 延べ12名 イ 図書館ボランティア活動日 毎月第3土曜日
達成度	A
学識経験者の意見	こもれびの森の図書館は、いつも大勢の利用者で盛況である。貸出人数や貸出点数に反映され、多くの人に親しまれていることがわかる。これは充実した施設環境、図書資料だけではなく、常に多様なニーズ対応したサービスの充実、バリアフリーサービスの向上のなど、利用者目線のサービスの向上を心がけている成果であり、高く評価したい。欲を言えば、様々な利便性の向上を広く知ってもらう工夫も欲しい。 図書館ボランティア活動も活発で図書館事業をよく支えている。今後も持続的な活動ができるようボランティアの養成にも努めて欲しい。 図書館機能の充実、目標に掲げた事項を十分に満たしているものであり、今後継続して業務に望んで欲しい。
課題 今後の対応方針	図書館に関する情報については、広報や市HPのほか、生涯学習センターの公式インスタグラム、図書館だよりにより周知を行っているが、より多くの市民の目に届くよう、市公式LINE等新たな手段についても検討を行っていきます。 ボランティアについては、図書館ボランティア体験講座を開催し、新たなボランティアの発掘を行っているが、講座の参加者に継続的に活動いただけるようより一層支援を行っていきます。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実
施策の方向	④子どもの読書活動の推進
主な取組	1 図書館における子どもの読書活動の推進 2 家庭・地域・学校等における子どもの読書活動推進の支援 3 子どもの読書活動を推進する体制の整備 4 子どもの読書活動推進に関する啓発・広報の充実
目標	子どもや親子を対象とした事業を実施するとともに、家庭や地域、学校等において子どもたちが自主的に読書に親しめるよう支援します。 地域、学校等、図書館の連携強化を図り、子ども読書活動推進計画を着実に推進します。
事業実績・成果	1 図書館における子どもの読書活動の推進【重点】 子どもが楽しみながら本とふれあうことができる事業を実施することで、子どもたちに幅広い分野の本との出会いや、物語の面白さを体験する機会を提供することができました。 (1) おはなし会 おはなし会（3歳以上対象） 36回 延べ565名 ちいさい子のおはなし会（0～3歳対象） 36回 延べ880名 (2) 夏休み子ども講座 「友だちにすすめたい本の帯とPOPの作り方講座」 7月24日、25日 38名 (3) 子ども司書養成講座 8月9日、10日 延べ6名 (4) 子ども司書活用事業 毎月第3土曜日 延べ8名 (5) 第12回しらおか本の帯・POPコンクール 応募作品数：本の帯部門160点、POP部門422点 作品展示：12月5日～12月17日 (6) 図書館本の福袋 乳児、未就学児、小学生を対象に40袋を配布 1月5日 (7) 日本工業大学との連携事業 11月23日開催のこもれびの森まつりにおいて実施 ア 「センサやカメラを使ってコンピュータを操作してみよう」 99名 イ 「『見て、触れて、感じる』学生の技術と情熱～学生フォーミュラ車両の展示～」
	2 家庭・地域・学校等における子どもの読書活動推進の支援【重点】 絵本を介した親子のふれあいを支援するブックスタート事業等により、家庭や学校等における子どもの読書活動の推進を支援することができました。 (1) 家庭における子どもの読書活動推進の支援 ア ブックスタート（ブックスタートパックの配布と読み聞かせ） 12回 327組 イ お父さんと一緒に本を読もう！ 5月26日、8月25日、11月24日、2月23日 延べ28名 (2) 学校等における子どもの読書活動推進の支援として、学校等への団体貸出や学校巡回サービスの実施
	3 子どもの読書活動を推進する体制の整備【重点】 市が一体となった子どもの読書活動推進に向け、地域・学校等との連携を強化することができました。 (1) 図書館ボランティア連絡会議の開催 4月25日、9月12日、12月19日 (2) 白岡教育研究会専門部学校図書館部会への参加 (3) 子育てネット「にこ梨ん♪」主催ベビーサロンへの協力 6月5日、11月13日

事業実績・成果	4 子どもの読書活動推進に関する啓発・広報の充実【重点】 子どもの読書週間にあわせたイベント開催や市内小学校の図書館見学の受入等により、子ども達の図書館や読書に対する関心を高めることができました。 (1) こどもの読書週間における事業 記念缶バッジの配布 4月23日～5月12日 計50個 「みんなとばそう！紙ひこうき！」 5月5日 32名 (2) 図書館見学、職場体験の受入 ア 図書館見学受入 小学校3校53名、幼稚園2園87名 イ 職場体験受入 中学校5校20名、特別支援学校1校8名
達成度	B
学識経験者の意見	活字離れが進む中で、子どもの読書活動の推進は重要な事業である。図書館における子どもの読書活動の推進では、おはなし会の開催、夏休み子ども講座での「友だちにすすめたい本の帯とPOPの作り方講座」、子ども司書養成講座などの取組みにおいて、子どもたちに図書館や本に対する興味や関心を深めることが成果としてあげられる。 子ども読書活動を推進する体制の整備、啓発・広報の充実については、図書館を核とした家庭、地域や学校等との連携を強化して行くことが望まれる。
課題 今後の対応方針	引き続き、子どもたちが楽しみながら本と触れ合うことができる事業等の開催により、子どもの読書活動の推進を図っていく。あわせて、これまで子どもの読書活動の推進のために連携・協力を行ってきたボランティアや学校、幼稚園だけでなく、これまで関わりのなかった新たな団体、組織等、地域の幅広い主体との連携に取り組んでいきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実
施策の方向	⑤枠組みを超えた生涯学習活動の連携強化
主な取組	1 こもれびの森まつりの開催 2 各種計画との連携によるイベントの開催
目標	こもれびの森まつりや、各種計画との連携によるイベントを開催するとともに、地域、学校などと協働を推進し、生涯学習活動の連携強化に努めます。
事業実績・成果	1 こもれびの森まつりの開催 市役所周辺を会場とした市の新たなイベント「しらおか秋の彩りフェスタ」の一部として開催しました。外部組織や市民ボランティア、近隣大学との連携・協働により、多様な事業を実施することができました。また、イベントのスケールメリットにより、生涯学習センターを利用したことがないかたに施設や様々な取組みについてPRを行うことができ、生涯学習センターの利用促進を図ることができました。 共催：社会福祉協議会、スポーツ推進委員連絡協議会、図書館ボランティア連絡会 協力：日本工業大学、白岡写真愛好会 (1) 総来場者数 約3,600名 (2) 開催日 11月23日(土) (3) 各事業の内容等 ア 館内スタンプラリー 250名 イ 体力テスト 40名 ウ ミュージアム・クイズ 70名 エ あんぎん編み体験(2回) 延べ24名 オ おはなし会(3回) 延べ62名 カ センサやカメラを使ってコンピュータを操作してみよう 99名 キ 古本市 283名 ク 布の作品の販売 ケ 社会福祉協議会コーナー(赤い羽根募金、コーヒー販売) コ 「見て、触れて、感じる」学生の技術と情熱～学生フォーミュラ車両の展示～
	2 各種計画との連携によるイベントの開催(再掲) 各種計画との連携、地域、学校などとの協働による講座の開催により、市民の生涯学習の機会を提供することができました。 (1) 各種計画との連携 ア 環境基本計画 ・大人の自然観察会「ひこべえの森 春の自然観察会」 5月6日 7名 イ 子ども・子育て支援事業計画及び環境基本計画 ・自然観察会 全3回 延べ127名 夜の昆虫観察会 7月13日 11組25名 甲虫の標本を作ろう 8月17日 2組 5名 ひこべえの森 冬のつどい 12月14日 97名 ・自然ふれあい体験教室 8月6日～7日 11名

事業実績・成果	ウ 子ども・子育て支援事業計画及びしらおかはぴすイッチプラン ・田んぼの学校 全4回（連続講座） 延べ36組105名 - 田植え体験 5月11日 8組24名 - 田んぼの草花や生き物観察会 6月9日 9組23名 - 稲刈り体験 9月7日 10組29名 - しめ縄作り 11月10日 9組29名 ・わいわい料理教室 全4回 延べ19組51名 - うどん打ち 7月13日 5組12名 9月14日 3組6名 - ピザづくり 9月28日 5組15名 11月9日 6組18名 (2) 学校等との協働事業 ア 市内中学校 ・自然観察会 ひこべえの森 冬のつどい 12月14日 52名 - 篠津中学校 11名、菁莪中学校 23名、南中学校 17名、白岡中学校 1名 イ 日本工業大学 ・「『見て、触れて、感じる』学生の技術と情熱 ～学生フォーミュラ車両の展示～」 ・「センサーやカメラを使ってコンピュータを操作してみよう」 38組99名
	3 日本工業大学との連携協定の締結 日本工業大学と行ってきたこれまでの取組みを発展させるとともに、より一層の連携協力を図ることで、地域における教育、文化等の充実と発展に寄与することを目的に、連携協定を締結しました。 (1) 協定締結式 ・実施日 10月4日（金） ・場 所 白岡市役所 庁議室 (2) 連携協力事項 学校教育・生涯学習に関すること、文化・スポーツの振興に関すること
達成度	A
学識経験者の意見	「こもれびの森まつり」は市役所周辺を会場とし、「しらおか秋の彩りフェスタ」の一部として実施され、当日は好天にも恵まれ、多数の来場者で終日賑わいをみた。様々な催しに大勢の参加者を得て、大きな成果を上げていた。 こもれびの森まつりでは、社会福祉協議会、市民ボランティア団体、日本工業大学などの参加協力を得て、盛りだくさんのイベントや催しに来場者は満足していたようである。普段、図書館に足を向けない層の人たちにも、図書館や歴史資料館を理解いただく良い機会であったと評価する。日本工業大学との連携では、10月に連携協定が締結され、一層の充実と発展を期待したい。
課題 今後の対応方針	「しらおか秋の彩りフェスタ」では多種多様なイベントが開催され、多くの市民に来場いただきました。「こもれびの森まつり」でも様々なイベントを開催したが、生涯学習センターに足を運んでもらうためのより魅力あるイベントの企画や積極的な周知を行っていく必要があります。 日本工業大学との連携・協力については、これまでの取組みを継続、発展させていくとともに、新たな取組みの実現に向けて密に連絡、協議を行っていきます。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(2) 人権教育の推進
施策の方向	①人権教育推進体制の充実
主な取組	1 白岡市人権教育推進協議会研修会の開催 2 「埼葛人権を考えるつどい」や各種人権教育研修会への参加 3 “じんけん”ふれあいコンサートの開催
目標	市人権教育推進協議会研修会等を開催し、人権教育の推進を図ります。 「埼葛人権を考えるつどい」や各種人権教育研修会に参加し、人権教育を推進する体制の充実に努めます。 多くの市民が参加できるような開催方法について検討します。
事業実績・成果	1 白岡市人権教育推進協議会研修会の開催 白岡市人権教育推進協議会総会後にDVD視聴形式の研修会を実施しました。 周りから見えにくい障害（発達障害や人工肛門保有者）やヤングケアラー等、 外見やカテゴリーで判断することなく、一人一人が考えや感じ方も違う人間である ということを理解し、人権意識の高揚が図られました。 (1) 演 題 「あなたの笑顔がくれたもの」～周りから見えにくい障害・生き づらさ～ DVD上映 (2) 日 時 令和6年6月27日（木）午後2時から2時40分まで (3) 参加人数 76名
	2 「埼葛人権を考えるつどい」や各種人権教育研修会への参加 「第33回埼葛人権を考えるつどい」は、中止となりました。 各種人権教育研修会に参加し、人権問題に対する理解と認識を深めることができ ました。 各種人権教育研修会 ・白岡市老人クラブ連合会人権講話 参加者 104名 ・白岡市人権教育推進協議会研修会 参加者 76名 ・埼葛地区人権教育推進協議会研修会 参加者 13名 ・第33回埼葛郡市教職員合同現地研修会 参加者 13名 ・第49回埼玉県人権教育研究集会 参加者 4名 ・埼葛地区人権教育指導者研修会 参加者 12名
	3 “じんけん”ふれあいコンサートの開催【重点】 12月の人権週間に合わせて、第1部では、市内小中学校の児童・生徒による人 権作文の発表を行いました。第2部では、和歌山県にある医療法人宮本病院が運営 する地域活動支援センター櫻から講師を招き、講演会を開催しました。また、地域 活動支援センター櫻に通所する精神障害などの当事者が中心となっているジャンベ チームによる演奏の様子を上映しました。 人権問題の解決に向けて、人権問題を身近なものとして捉えるきっかけとなり、 人権教育の重要性を再認識することができました。 12月7日（土）参加者152名
達成度	B

学識経験者の意見	白岡市人権教育推進協議会研修会では、DVD視聴形式で「あなたの笑顔がくれたもの～周りから見えにくい障害・生きづらさ～」が行われた。DVD視聴を通し、周りから見えにくい障害についての理解が深められたと思われる。今後も様々な人権問題に視点をあてた取り組みを続けて欲しい。 “じんけん”ふれあいコンサートでは、12月の人権週間に合わせ、市内小中学校の児童・生徒による人権作文の発表や和歌山県にある医療法人宮本病院が運営する地域活動支援センターの講師による講演会が実施された。また、地域活動支援センター櫻に通所する精神障害などの当事者が中心となっているジャンベチームによる演奏の様子の上映や会場での演奏も行われた。宮本病院の講演は当事者に関わる方からの話で説得力があり、理解を深めることができた。欲を言えば、人権作文の発表で中学生が一人発表されなかったことが残念であった。
課題 今後の対応方針	白岡市人権教育推進協議会研修会等では、様々な人権問題に関するテーマを取り扱った研修会を実施することにより、継続的に理解促進と人権意識の高揚を図ります。 また、“じんけん”ふれあいコンサートでは、人権作文の発表などによる、小中学生の感性を参加者に訴えることによる啓発活動と講演会・演奏等により、人権意識の高揚を図り、人権問題への理解の促進と関心を深める機会とします。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(2) 人権教育の推進
施策の方向	②啓発活動の充実
主な取組	1 「埼葛人権を考えるつどい」や各種人権関係研修会への参加 2 “じんけん”ふれあいコンサートの開催 3 「広報しらおか」「市公式ホームページ」などで人権教育・人権問題の啓発を実施 4 児童・生徒の人権作文集や各種啓発パンフレットの作成・配布
目標	“じんけん”ふれあいコンサートの開催やリーフレット等を作成・配布します。 「広報しらおか」や「市公式ホームページ」などでの人権教育・人権問題の啓発を実施します。 白岡市老人クラブ連合会の総会で人権講話を行います。
事業実績・成果	1 「埼葛人権を考えるつどい」や各種人権教育研修会への参加 「第33回埼葛人権を考えるつどい」は、中止となりました。 各種人権教育研修会に参加し、人権問題に対する理解と認識を深めることができました。 各種人権教育研修会 ・白岡市老人クラブ連合会人権講話 参加者 104名 ・白岡市人権教育推進協議会研修会 参加者 76名 ・埼葛地区人権教育推進協議会研修会 参加者 13名 ・第33回埼葛郡市教職員合同現地研修会 参加者 13名 ・第49回埼玉県人権教育研究集会 参加者 4名 ・埼葛地区人権教育指導者研修会 参加者 12名

事業実績・成果	2 “じんけん” ふれあいコンサートの開催【重点】（再掲） 12月の人権週間に合わせて、第1部では、市内小中学校の児童・生徒による人権作文の発表を行いました。第2部では、和歌山県にある医療法人宮本病院が運営する地域活動支援センター櫻から講師を招き、講演会を開催しました。また、地域活動支援センター櫻に通所する精神障害などの当事者が中心となっているジャンベチームによる演奏の様子を上映しました。 人権問題の解決に向けて、人権問題を身近なものとして捉えるきっかけとなり、人権教育の重要性を再認識することができました。 12月7日（土） 参加者152名
	3 「広報しらおか」「市公式ホームページ」などで人権教育・人権問題の意識の啓発をするため、人権教育啓発記事「人権それは愛」を広報しらおかに掲載しました。また、この記事を含めた縮刷版を作成して、市内公共施設に配架するなどして、人権意識の高揚を図りました。 年4回（6月号、8月号、12月号、3月号）掲載
	4 児童・生徒の人権作文集や各種啓発パンフレットの作成・配布 啓発品を作成し、窓口や各種研修会において配布 人権作文・標語集を作成し、市内小・中学校に2月配布
達成度	B
学識経験者の意見	人権教育の啓発で大きな役割を果たしていた「第33回埼葛人権を考えるつどい」が中止となった。市独自でも「“じんけん” ふれあいコンサート」を開催しているが、市老人クラブ連合会の人権講話のような機会を増やして、積極的に機会を捉えた啓発活動を望みたい。 「広報しらおか」、「市公式ホームページ」などでの人権教育・人権問題の啓発については、マンネリ化を避けながら、また様々な人権問題に関心が向けられるよう一層の工夫を望みたい。
課題 今後の対応方針	引き続き、「埼葛人権を考えるつどい」の中止等も踏まえた、市老人クラブ連合会での人権講話のような機会を捉え、多様な対象に向けた啓発活動を積極的に展開します。 また、「広報しらおか」や市公式ホームページ等での情報発信では、題材とする人権問題の幅を広げ、市民の関心を引きつけるための表現や内容の工夫を継続的に行い、人権意識の更なる高揚を図ります。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(3) 文化・芸術活動の促進
施策の方向	①文化・芸術に触れる機会の充実
主な取組	1 文化講演会の開催 2 ランチタイムコンサートの開催 3 ギャラリー（企画展示室）の利用促進
目標	文化講演会を開催するほか、ランチタイムコンサートの再開に向けて検討します。 生涯学習センター「こもれびの森」のギャラリー（企画展示室）などを市民や市内で活動する団体の成果発表の場として活用することにより、市民が幅広い文化・芸術に触れる機会を提供します。
事業実績・成果	1 文化講演会の開催【重点】 11月3日（日・祝）に歌手の木山裕策さんを講師にお招きし、「夢が自分を大きくする」と題して、講演をしていただきました。 すべての人たちが生涯を通じて楽しく学び、憩い、交流することができる生涯学習・地域コミュニティ・文化創造の拠点である生涯学習センターにおいて、「いつでも・どこでも・誰でも」学べる生涯学習を支援するため、市民の皆様が、幅広い文化・芸術に触れる機会を提供することができました。 参加者数 225名
	2 ランチタイムコンサートの開催 現在、ランチタイムコンサートの出演者であった市内の音楽愛好家は、生涯学習センターの音楽スタジオや集会室等を活用して、独自に活動を行っています。 ランチタイムコンサートの再開に当たっては、以前実施をしていた庁舎内のセンターラウンジ内及び周辺のレイアウトが変わってしまい、開催が困難となっている等、課題があるため、課題を整理しているところです。
	3 ギャラリー（企画展示室）の利用促進 ギャラリー（企画展示室）は、市主催の企画展示のほか、芸術・文化などの分野において、精力的に創作活動をされている市民の皆様や、市内で活動されているサークルの方々による自らの創作活動の発表の場として、活用していただいております。 利用頻度が高く、今年度は20団体から利用申請を受け、利用期間はほぼ埋まっている状況にあります。 利用者のバランス、希望にこたえるためのギャラリー利用調整会議を年2回開催し、計画的なギャラリーの利用を推進しています。
達成度	B
学識経験者の意見	今年度の文化講演会は11月3日に歌手の木山裕策さんを講師に「夢が自分を大きくする」と題した講演とコンサートであった。充実した講演と演者によるコンサートはまさに文化講演会にふさわしいもので評価したい。来場者も満足されたと思われる。今後も市民に質の高い文化発信を続けて欲しい。 ランチタイムコンサートはコロナ禍以降、中断しているのが現状である。従来の形式にとらわれずに実施できる開催方法を検討していただきたい。 ギャラリー（企画展示室）は、市主催の企画展示のほか、芸術・文化などの分野において、市民や市内サークルの展示が年間を通して行われており、市民の成果発表の機会を提供している。今後も継続して欲しい。
課題 今後の対応方針	文化講演会を開催し、市民が幅広い文化・芸術に触れる機会を提供していきます。 また、生涯学習センター「こもれびの森」を市民や市内で活動する団体の成果発表の場として活用していく事業を実施していきます。

評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(3) 文化・芸術活動の促進
施策の方向	②市民の文化・芸術活動の支援
主な取組	1 社会教育団体との連携・協力
目標	社会教育関係団体に対する支援を通して、市民の様々な文化・芸術活動を推進します。
事業実績・成果	1 社会教育団体との連携・協力（再掲） 補助金の交付により、文化祭の開催や文連だよりの発行をすることができ、芸術・文化活動の充実、発展に寄与する活動を支援することができました。 ・社会教育関係団体補助金交付 【1 団体（白岡市文化団体連合会）】
達成度	B
学識経験者の意見	文化団体連合会は、様々な文化活動に関わっている市民が参加している。補助金の交付により、文化祭の実施や「文連だより」の発行など広報活動の支援にもつながる。 一方、文化団体連合会は団体数や会員数の減少が見られ、会員の高齢化とともに今後も減少が続くと思われる。そこで、公民館講座等と連携しながらサークル活動の活性化に努めて欲しい。
課題 今後の対応方針	引き続き、社会教育団体に対する支援を通して、市民の様々な文化・芸術活動を推進していきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進
施策の方向	①文化財の総合的把握の促進
主な取組	1 分野ごとの調査精度の向上 2 仏像、美術工芸品、建造物など未実施項目の調査の推進 3 「総合的な把握」の手法を生かした調査の推進 4 身近な文化財に気づき、誇りを持って守り伝える取組の支援 5 把握した文化財の活用を視野に入れた情報の共有化の促進 6 市民協働での調査活動やワークショップの促進
目標	これまで文化財分野ごとに行われてきた調査活動の精度を高めるとともに、行われてこなかった分野の調査活動を推進します。また、調査対象の多角的な検討や、調査成果の分野横断的な検討を行い、文化財の総合的な把握に努めることで、市民のシビックプライドの醸成を図ります。
事業実績・成果	1 分野ごとの調査精度の向上 今年度実施した調査活動は埋蔵文化財発掘調査と市内仏像調査、寄託・寄贈を受けた文書資料や民俗資料の整理を実施しています。 (1) 埋蔵文化財本発掘調査 2件 ア 茶屋遺跡第9地点（白岡） 11月26日～翌年2月7日 イ 茶屋遺跡第10地点（白岡） 12月3日～18日 (2) 埋蔵文化財試掘調査 21件 (3) 出土遺物整理事業 通年 山遺跡ほか (4) 発掘調査報告書作成・刊行 『山遺跡第6・15・16・19地点』 (5) 自然科学分析 本田下遺跡第1地点貝塚土壌自然科学分析 (6) 諸資料の調査・整理 吉沢弘之家旧蔵文書ほか 9件 (7) 企画展図録、歴史資料館紀要の刊行
	2 仏像、美術工芸品、建造物など未実施項目の調査の推進【重点】 白岡市文化財保存活用地域計画に基づく仏像調査を2か寺で1回実施しました。調査は本年度で3年目にあたり順調に推移しています。 ・全龍寺（下大崎） 7月11日 ・常福寺（柴山） 7月11日
	3 「総合的な把握」の手法を生かした調査の推進 白岡市文化財保存活用地域計画で提示した6つの関連文化財群のストーリーを踏まえながら、構成文化財を補強するための調査を順次進めていきます。 今年度については、大山地区の仏像調査や柴山の古老からの聴き取り調査を行っており、ストーリー4「水の災いを恵みに換える暮らしの知恵」に資する調査成果をあげたものと捉えています。
	4 身近な文化財に気づき、誇りを持って守り伝える取組の支援 文化財の管理と適切な伝承を行うため、文化財収蔵施設の維持管理に努めました。安楽寺と白岡遺産保存活用市民会議との共催で同寺所蔵文化財の一般公開を行いました。市内の文化財を収蔵している生涯学習センター3階の一般収蔵庫及び特別収蔵庫、寄贈・寄託による館蔵資料の燻蒸作業を実施しました。 指定文化財標柱改修事業として、岡京観音堂の標柱2本の塗り直しを実施しました。

事業実績・成果	5 把握した文化財の活用を視野に入れた情報の共有化の促進 把握した文化財については、速やかに整理を進め、今後の活用に備えます。 埋蔵文化財調査においては、調査後の図面と写真及び出土遺物の基礎整理作業を実施しました。 仏像調査においては、調査後の調書と写真の整理を実施しました。 寄贈・寄託を受けた歴史資料や民俗資料については、目録の作成と写真記録を実施しました。 6 市民協働での調査活動やワークショップの促進 仏像調査の成果を踏まえ、安楽寺と白岡遺産保存活用市民会議との共催で安楽寺所蔵の文化財の一般公開を行いました。 4 同様、今後も6つの関連文化財群のストーリーを踏まえながら、構成文化財を補強するための調査を順次進めていきます。
達成度	A
学識経験者の意見	当市では県内に先駆けて、「白岡市文化財保存活用地域計画」の策定や「白岡市文化財保存活用市民会議」を立ち上げ、先進的に文化財調査・保護事業を展開していることを評価したい。 分野ごとの調査精度の向上では、発掘調査報告書作成・刊行や歴史資料館の企画展図録、歴史資料館紀要の刊行など、少数職員体制の中での実施を高く評価したい。 仏像、美術工芸品、建造物など未実施項目の調査の推進では、仏像調査を全龍寺と常福寺の2か寺で実施し着実に調査を進められた。 市民協働での調査活動やワークショップの促進では、仏像調査の成果を踏まえ、安楽寺と白岡遺産保存活用市民会議との共催で安楽寺所蔵の文化財の一般公開が行われたことを評価したい。
課題 今後の対応方針	引き続き、文化財調査をとおした市内の文化財の把握に努めてまいります。仏像調査については、調査と整理作業を継続するとともに、その成果について、機会を捉えて一般公開や解説会等を開催し、市民に文化財に親しんでもえるよう取組みます。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進
施策の方向	②歴史文化の保存と継承
主な取組	1 活用頻度の高い文化財の複製作成の推進 2 文化財伝承活動の適切な支援 3 地域と協力した適切な防災体制の構築 4 消防との情報交換体制の整備 5 白岡市文化財保存活用地域計画に関する理解の促進
目標	文化財の確実な保存と継承のために3つの取組を推進します。 1 文化財の管理と適切な伝承活動 2 文化財に関する防災・防犯活動 3 文化財保護のための体制整備
事業実績・成果	1 活用頻度の高い文化財の複製作成の推進 館蔵資料の整理を進め、複製作成すべき資料を抽出しています。 2 文化財伝承活動の適切な支援 文化財の適切な伝承を行うため、指定文化財に対して管理・修理に対する補助金交付による支援を実施しました。(3件) ・獅子舞の舞座の正面に掲げる提灯2張の新規作成(小久喜の獅子舞) 5月10日 ・山車提灯の張り替え(篠津天王様の山車・神山耕地) 6月20日 ・山車提灯の補充(篠津天王様の山車・横宿耕地) 8月15日 3 地域と協力した適切な防災体制の構築 市指定文化財所有者には、管理者交代等も含め、適宜連絡をとることで、非常時の連絡先の把握に努めています。 また、文化財防火デーに合わせた文化財防火訓練を地域住民参加で実施し、防災意識の醸成に努めました。 ・観福寺(野牛) 1月26日 参加者31名 4 消防との情報交換体制の整備 3であげた文化財防災訓練を共同で実施しました。さらなる連携に努めていきます。 5 白岡市文化財保存活用地域計画に関する理解の促進 白岡市文化財保存活用地域計画に基づく「白岡遺産」をテーマとした企画展示の開催や白岡遺産の作り方講座による周知を図りました。 白岡遺産保存活用市民会議定期総会後に公開講演会を開催しました。 (1) 企画展「暮らしを支えた木綿と生糸～紡ぎ。織りなす白岡遺産～」 10月14日～12月1日 (2) 白岡遺産の作り方講座 7月21日、8月18日、9月15日、10月20日 延べ13名 (3) 白岡遺産ワークショップ 11月3日、12月15日、2月16日 延べ18名 (4) 白岡遺産保存活用市民会議定期総会及び公開講演会 5月19日 参加者47名
達成度	A

学識経験者の意見	「白岡市文化財保存活用地域計画」に基づき諸事業を着実に実施していることを評価したい。 「白岡市文化財保存活用市民会議」と連携して総会後に公開講演会を実施し、「白岡市文化財保存活用地域計画」の市民への理解促進に努めたり、新たな白岡遺産を目指した白岡遺産の作り方講座を実施するなど今後の展開が楽しみである。 歴史文化の保存と活用のためには防災体制の構築は欠かせない。そのような中での「文化財防火訓練」が消防組合や観福寺、地域住民の参加を得て実施されたことは市民の文化財に対する防災意識の高揚に寄与している。今後は災害が発生した時に備えた文化財救出マニュアル等の整備も進めて欲しい。
課題 今後の対応方針	市内仏像調査によって、寺院所蔵の文化財の把握に努めるとともに、毎年実施している文化財防火訓練によって、市内の寺院や消防組織との連携を深めてまいります。こうした取組を踏まえ、市民の文化財に対する防災意識を高めるとともに、発災時の緊急連絡体制や被災時の文化財救出マニュアル等の整備を検討します。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進
施策の方向	③歴史文化の情報発信・普及活用の充実
主な取組	1 文化財調査の成果の速やかな公開 2 理解しやすく、親しみやすい文化財資料の公開 3 学校との連携強化の促進 4 歴史資料館事業の充実 5 W e bを活用した情報発信の促進 6 文化財を活用した様々なイベントの推進
目標	文化財の調査成果の速やかな公表、理解しやすく親しみやすい情報発信に努めます。歴史資料館の充実や文化財を活用した様々なイベントの開催、また観光協会などと連携した新たな普及活動に努め、市民の郷土の歴史文化に対する興味関心を深めます。
事業実績・成果	1 文化財調査の成果の速やかな公開 埋蔵文化財については、毎年度発掘調査報告書を刊行しているほか、調査成果を速報として市ホームページに掲載しています。 白岡遺産に関する文化財情報は隔月で「広報しらおか」に掲載しています。 2 理解しやすく、親しみやすい文化財資料の公開 資料画像について利用希望者の求めに応じ、テレビ番組等への画像提供を行ったり、講師派遣事業について資料を用いたりするなど、文化財と市民との距離が縮まるよう努めました。 (1) 外部への資料提供 資料貸出 4 件、資料画像提供 3 件 (2) 講師派遣 職員出前講座 3 件、歴史学習支援事業 1 件、指導者派遣 4 件 (3) 歴史的公文書の整理・目録の作成 3 学校との連携強化の促進 歴史資料展示室常設展示の最終コーナー「明日を創る」に展示する児童生徒の「未来の白岡」絵画展の公募を学校に対して行い、最優秀作品を展示しました。 文化財のうち、特に児童生徒の歴史学習活動に有効なものを学校に持参し、教材として活用する「歴史学習支援事業」の実施希望を照会し、今年度は 1 件の事業を実施しました。 ・古い道具と昔の暮らし 1 1 月 2 日 菁莪小学校全校生徒（大人ライブに伴う体験）

事業実績・成果	4 歴史資料館事業の充実 歴史資料館において企画展や季節展示を実施するとともに、市民向けの普及講座を積極的に開催することで、市民に文化財に関する情報を提供し、文化財に対する理解の促進に努めました。 (1) 歴史資料館主催展示 計5回 ア 企画展「暮らしを支えた木綿と生糸～紡ぎ、織りなす白岡遺産～」 10月14日～12月1日 イ 季節展示「近世の白岡領主～旗本川副氏を知っていますか？～」 4月27日～6月2日 ウ 季節展示「祝！白岡町誕生70周年」 7月27日～9月8日 エ 季節展示「中妻遺跡から見た古代～白岡の奈良時代・平安時代～」 12月7日～3月14日 オ リレー展示「都鳥が見た古代～埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代～」 3月15日～4月8日 (2) 定例展示解説会「ハンズ・オン・デイ」 計12回 4月15日、5月18日、6月15日、7月20日、8月17日、9月21日、 10月19日、11月23日、12月21日、1月18日、2月15日、3月22日 今後1月20日、2月17日、3月16日 (すべて土曜日) (3) ミュージアム・ゼミナール 3講座計9回 ア 実験考古学講座～磨製石斧作り～ 7月11日、18日、25日 延べ6名 イ 俳諧と白岡～江戸・明治の俳諧事情～ 11月14日、21日、28日 延べ4名 ウ 都鳥が見た古代～埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代～ 3月14日、21日、28日 延べ18名 (4) 親子おもしろミュージアム ア 藍のたたき染め教室 8月3日 11名 イ だるまさんを作ろう 2月8日 19名 (5) ペアーズアカデミーにおける連携講座 1講座3回 企画展との連携講座 11月7日、14日、28日 延べ54名 (6) 資料館だより『のよみち』の発行 年4回 (7) 企画展図録、歴史資料館紀要の刊行
達成度	A
学識経験者の意見	5 Webを活用した情報発信の促進 市ホームページを活用し、文化財調査成果の公開するほか、歴史資料館実施事業の事事前周知と事後報告についても情報発信を行いました。 市ホームページに市所蔵文化財の基礎的情報を掲載するデジタルアーカイブズを公開しました。 6 文化財を活用した様々なイベントの推進 4であげた歴史資料展示室におけるイベントのほか、学習支援担当と連携し、ペアーズアカデミーにおいて文化財に関する講義を実施しました。 文化財保存団体や文化財愛護団体が実施するイベントについても連携・協力に努めました。 歴史文化の情報発信・普及活用の充実については、様々な取組みが着実に実施され、大きな成果を上げていることを評価したい。中でも、次に掲げる事業は特に評価する。 文化財調査の成果の速やかな公開では、埋蔵文化財の発掘成果をいち早く市ホームページに掲載している。また、白岡遺産に関する文化財情報では隔月で「広報しらおか」に掲載しており、市民への普及活動として今後も継続して欲しい。 学校との連携強化の促進では、「未来の白岡」の5年間分の応募作品をまとめた絵画展作品集を刊行した。このことが歴史資料館をより一層身近なものとして感じてもらえる機会となることを期待したい。 歴史資料館事業の充実では、資料館だより『のよみち』の発行、企画展図録、歴史資料館紀要の刊行などの成果は少ない職員体制の中での実施であり高く評価したい。 今後も継続的な事業展開を推進していくには、現在の職員体制では困難と思われるので職員体制の強化を望みたい。

課題 今後の対応方針	白岡市立歴史資料館は、令和6年12月17日をもちまして、博物館法に基づく「登録博物館」に登録されました。今後も白岡市を代表する博物館施設として、博物館運営の質の向上に努め、文化財普及啓発の拠点となるよう、幅広い年代を対象とした普及事業に取り組めます。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進
施策の方向	④市民との連携・協働による歴史文化の保存・活用
主な取組	1 特色ある地域の伝統行事の発掘の促進 2 地域の行事を地域で支える仕組みづくりの促進 3 担い手同士のネットワーク化の促進 4 周囲から支える仕組みづくりの促進 5 市民や地域団体の提案による文化財保護の取組の促進
目標	特色ある伝統行事を後世に伝えるために、地域の行事を地域で支える仕組みづくりを促進します。「白岡遺産」制度をその中核として、市民が主役となりうる文化財保護の仕組みづくりを促進します。 また、地域が主体となっていく取組を地域の事業者、企業などが支援し、新たな取組の創造や、団体同士の支えあいの仕組みづくりを支援することで、市民や地域団体が主体的に文化財を守り伝えていく提案型の文化財保護の仕組みづくりを促進します。
事業実績・成果	1 特色ある地域の伝統行事の発掘の促進 「白岡遺産」制度の中核を担う組織である白岡遺産保存活用市民会議の運営に係る各種を開催しました。 (1) 白岡遺産保存活用市民会議設立総会及び記念講演会 5月19日 参加者47名 (2) 白岡遺産保存活用市民会議理事会 4月28日 2 地域の行事を地域で支える仕組みづくりの促進 1 同様に白岡遺産保存活用市民会議を主体として取り組んでいく予定です。 3 担い手同士のネットワーク化の促進 1 同様に白岡遺産保存活用市民会議を主体として取り組んでいく予定です。 4 周囲から支える仕組みづくりの促進 白岡遺産保存活用市民会議との共催で、文化財の一般公開や市民会議広報誌を作成しました。 (1) 安楽寺文化財一般公開 6月8日 113名 (2) 白岡遺産保存活用市民会議だより2号 300部発行 (3) 白岡遺産セルフガイドブック 2,000部発行 5 市民や地域団体の提案による文化財保護の取組の促進 白岡遺産保存活用市民会議との共催による白岡遺産の作り方講座や自主的なワークショップの開催によって、市民提案による新たな白岡遺産候補の検討を行いました。 (1) 白岡遺産の作り方講座 7月21日、8月18日、9月15日、10月20日 延べ13名 (2) 白岡遺産ワークショップ 11月3日、12月15日、2月16日 延べ18名
達成度	A

学識経験者の意見	「白岡市文化財保存活用地域計画」を市民参加で具現化する組織として、「白岡遺産保存活用市民会議」が設立されたことは大変意義あることで評価したい。 白岡遺産保存活用市民会議との共催で安楽寺の協力を得て実施した文化財の一般公開では113名の方が参加されたことを評価したい。また、市民会議広報誌の「白岡市文化財保存活用市民会議だより」の発行をとおし多くの市民方への普及活動を推進した。 白岡遺産保存活用市民会議との共催による白岡遺産の作り方講座や自主的なワークショップを開催し、市民提案による新たな白岡遺産候補の検討が行われたことは評価する。 今後も市民との連携・協働による歴史文化の保存・活用をさらに推進して欲しい。
課題 今後の対応方針	白岡遺産の作り方講座やワークショップをとおして、市民提案による新たな「白岡遺産」が作成・認定される見込みです。従来の指定・登録制度に白岡遺産制度を加えた、新たな文化財保護制度を運用、定着できるよう、今後も白岡遺産保存活用市民会議との連携・協働を進めてまいります。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(5) 生涯スポーツの普及・推進
施策の方向	①生涯スポーツの普及・推進
主な取組	1 スポーツ教室（ニュースポーツ教室を含む）の実施 2 ウォーキング教室の実施 3 新体力テストの実施 4 白岡新春マラソン大会の開催
目標	市民の皆様の健康づくりの場を提供し、生涯スポーツ活動の推進を図ることを目的として、子どもから高齢の方まで気軽に参加できるスポーツ教室のほか、市民ウォーキング、雪上体験教室などの事業を実施します。 また、本市におけるスポーツ活動を推進するための基本的な方向性を定める「白岡市スポーツ推進計画」の策定を進めます。
事業実績・成果	1 スポーツ教室（ニュースポーツ教室を含む）の実施【重点】 市民が生涯にわたり健康に暮らせるように、身体を動かすきっかけとして、ニュースポーツや障害者スポーツを体験できるニュースポーツ教室を市内各小学校体育館において開催しました。 このことにより、市内におけるニュースポーツの周知が進み、また、市民が楽しく身体を動かすきっかけづくりを提供することができました。 (1) ニュースポーツ教室「モルック」 ・ 6月 8日（土） 南小学校体育館 16名 ・ 6月22日（土） 西小学校体育館 20名 ・ 7月14日（日） 菁莪小学校体育館 10名 ・ 9月 8日（日） 大山小学校体育館 9名 ・ 9月29日（日） 白岡東小学校体育館 18名 ・ 10月19日（土） 西小学校体育館 13名 ・ 12月 8日（日） 南小学校体育館 22名 (2) さいかつぼー交流大会 ・ 12月1日（日） 南小学校体育館 4チーム26名
	2 ウォーキング教室の実施【重点】 市民が生涯にわたり健康に暮らせるように、身体を動かすきっかけとして、市民ハイキングを鋸山（千葉県富津市）において開催しました。 このことにより、ハイキングの楽しさを知ってもらい、日常においてもウォーキング等の運動を始めるきっかけを提供することができました。 ・ 10月26日（土） 36名
	3 新体力テストの実施【重点】 新体力テストを生涯学習センター〔こもればの森〕多目的ホールにおいて開催しました。 このことにより、参加者自身の運動能力などを確認する機会を提供することができ、今後の健康づくりや体力の向上を図るための一助とすることができました。 11月23日（土） 40名
	4 白岡新春マラソン大会の開催【重点】 生涯スポーツの振興とともに、市民の体力・健康づくりやふれあいの機会を提供するために白岡新春マラソン大会を開催しました。 このことにより、市内外から多くの方に参加していただくことができ、市民ランナーをはじめ、日ごろの努力の成果、また走る楽しさを多くの方に知ってもらうことができました。 令和7年1月19日（日） 参加者1,866人（申込者数2,162人）

事業実績・成果	5 スポーツ推進計画策定委員会の開催【重点】 本市におけるスポーツ活動を推進するための基本的な方向性を定める「白岡市スポーツ推進計画」の策定を進めるために、スポーツ推進計画策定委員会を開催しました。 委員の皆様から多くの御意見を頂戴し、スポーツ推進計画の基本方針素案を今年度に決定しました。 ・第1回会議 令和6年7月19日（金） 参加者 委員13名 ・第2回会議 令和6年9月26日（木） 参加者 委員10名 ・第3回会議 令和6年12月4日（水） 参加者 委員11名 会場 生涯学習センター〔こもればの森〕音楽・軽スポーツ室
達成度	A
学識経験者の意見	生涯スポーツの普及・推進にあたって、スポーツ教室、ウォーキング教室、新体力テスト、白岡新春マラソン大会などを実施し、多くの参加者を得ていることは評価できる。 これらの事業実施にあたっては、職員だけでは運営が難しいなかスポーツ推進委員や白岡新春マラソン大会実行委員など多くのボランティアの協力の下で行われている。今後も良好な関係を維持しながら、市民参加型スポーツとして進めて欲しい。 新春マラソン大会は、好天にも恵まれ1,866名もの参加で開催された。多くのボランティアスタッフが大会準備、当日、片付けと任務にあたっていた。スタッフについては、スポーツ協会加盟団体の減少等もあり、難しい局面を迎えているが今後も工夫しながら、安全に親しまれる大会として発展することを期待する。 本市におけるスポーツ活動を推進するための基本的な方向性を定める「白岡市スポーツ推進計画」の策定も進めて欲しい。
課題 今後の対応方針	今後もニュースポーツ教室を通して、モルック、ボッチャ等の生涯スポーツの普及に努めます。また、新たな種目の開拓も検討していきます。 新春マラソン大会については、参加者から好評をいただくことができました。課題としては、引き続き協力スタッフの確保が困難となっていることです。今後は、業務委託やボランティアスタッフの活用等の検討を進め、限られた人員でどのように大会運営を行っていくか検討していきます。 スポーツ推進計画については、策定委員会での意見を伺いながら、令和7年度中の計画策定を目指します。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(5) 生涯スポーツの普及・推進
施策の方向	②スポーツ指導者の育成
主な取組	1 社会体育関係団体指導者等研修会の実施 2 スポーツ推進委員研修会の実施 3 社会体育団体との連携・協力 4 障がい者スポーツ指導員の育成支援
目標	社会体育団体指導者等研修会やスポーツ推進委員研修会を実施し、スポーツ指導者の育成を推進します。 また、研修会の内容の充実を図り、より多くの指導者や指導者を志す人の研修会への参加を促進します。
事業実績・成果	1 社会体育関係団体指導者等研修会の実施 白岡市におけるスポーツ活動の普及・振興を図るため、体育協会加盟団体指導者・市内体育施設利用者等を対象に、指導者としての知識・技能の向上を図ることを目的として、社会体育関係団体指導者等研修会を実施しました。 ・3月8日 実施 「いつまでもスポーツを楽しめる身体づくり～ジュニアからシニアまで～」 講師：長山武博氏 参加者 44名
	2 社会体育関係団体指導者等研修会の実施 モルック等各種ニュースポーツの研修会を実施し、ニュースポーツを体験することや、ルールを習得することができ、指導者の知識向上に繋げることができました。 また、全国スポーツ推進委員研究協議会や埼玉県スポーツ推進委員連絡協議会の負担金について市が負担し、積極的な参加の促進を図りました。 このことにより、スポーツ推進委員を中心とした生涯スポーツ・地域スポーツ指導者の育成を推進することができました。
	3 社会体育団体との連携・協力 白岡まつり（白岡市スポーツ協会） 8月24日（土） 市民体育祭（白岡市スポーツ協会） 10月～11月 白岡新春マラソン大会（白岡新春マラソン大会実行委員会） 1月19日（日）
	4 障がい者スポーツ指導員の育成支援 白岡アダプテッドスポーツ協議会が開催しているアダプテッドスポーツ教室において、白岡市アダプテッドスポーツ連絡協議会と連携し、教室を実施しました。 このことにより、障がい者や高齢者、子ども等と一緒にスポーツを楽しむことができる機会を提供することができました。 ・勤労者体育センターアリーナ 全10回
達成度	A
学識経験者の意見	各種スポーツ指導者の育成を目的とした社会体育関係団体指導者等研修会やスポーツ推進研修会の実施をととしたスポーツ指導者の育成は今後も継続して進めて欲しい。なお、スポーツ推進員の研修については、埼葛地区スポーツ推進員連絡協議会等の研修会にも積極的に参加して欲しい。 障がい者スポーツ指導員の育成支援については、今後も継続して白岡アダプテッドスポーツ協議会と連携し、教室を開催して欲しい。

課題 今後の対応方針	令和7年度も社会体育関係団体等研修会やスポーツ推進委員研修会、アダプテッドスポーツ教室を実施し、スポーツ指導者の育成や、生涯スポーツ・地域スポーツ・障がい者スポーツの指導体制の整備を図っていきます。 また、研修会の実施にあたっては、テーマ設定に留意し、スポーツ指導者にとって有意義なものとなるよう努めていきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(5) 生涯スポーツの普及・推進
施策の方向	③スポーツ施設・設備の充実
主な取組	1 スポーツ施設・設備の適正な維持管理 2 指定管理者によるB＆G海洋センターの管理運営 3 指定管理者が実施する自主事業（水泳教室等）の実施
目標	施設・設備の状態について日頃から注視し、適切な維持管理に努めます。 また、学校体育施設の開放については、今後もスポーツ・レクリエーション活動の場を提供することにより、スポーツ活動の充実に努めます。 B＆G海洋センターについては、指定管理者が実施する自主事業を活用し、利用者の確保に努めます。 また、B＆G海洋センターについては、老朽化したボイラーや空調設備の更新、照明のLED化、給排水設備の改修など、大規模改修工事を実施します。
事業実績・成果	1 スポーツ施設・設備の適正な維持管理 勤労者体育センター、市民テニスコート、総合運動公園、白岡公園野球場及びふれあいの森公園運動広場の施設管理を適正に行うことができました。 B＆G海洋センターについては、空調設備の更新、照明のLED化、給排水設備の改修などの大規模改修を実施しました。 このことにより、安心、安全な施設で市民の健康増進と体力向上を図ることができました。
	2 指定管理者によるB＆G海洋センターの管理運営 指定管理者によって、施設を適切に運営することができました。 指定期間 令和6年4月1日～令和11年3月31日（5年間） 利用人数 令和6年度59,892人（令和7年 3月末現在）
	3 指定管理者が実施する自主事業（水泳教室等）の実施 自主事業を実施することによって、利用者の増加に資することができました。 ・スイミングスクール（令和6年4月～令和7年3月） 延べ10,394名 ・ジュニア定期水泳教室 5月～7月（月曜・7回・定員25名） 延べ130名 9月～10月（月曜・4回・定員25名） 延べ83名 2月～3月（月曜・7回・定員25名） 延べ38名 ・大人初心者水泳教室生 5月～6月（月曜・7回・定員12名） 延べ62名 ・大人中級者水泳教室 5月～6月（月曜・7回・定員12名） 延べ48名 ・大人定期水泳教室 9月～10月（月曜・4回・定員25名） 延べ39名 ・「B＆G自然体験会」開催 2名 雨天のため、B＆G海洋センターでの自然学習
達成度	A

学識経験者の意見	勤労者体育センター、市民テニスコート、総合運動公園、白岡公園野球場及びふれあいの森公園運動広場やB＆G海洋センターの施設を安全に快適に使用するには施設管理が重要である。B＆G海洋センターでは、空調設備の更新、照明のLED化、給排水設備の改修などの大規模改修を実施し、安心、安全な施設で市民の健康増進と体力向上に寄与していることを評価したい。 指定管理者が実施する自主事業の「水泳教室」や「B＆G自然体験会」については、B＆Gの利用者だけではなく広く市民が参加できよう広報活動等を一層工夫して欲しい。 市民が安心してスポーツに親しめるよう、継続して適切な施設の維持管理と運営を進めて欲しい。
課題 今後の対応方針	市内体育施設に関しては指定管理者制度も活用しながら、体育施設及び設備を安全かつ適切に管運し、運営を行っています。 体育施設の老朽化が進行していますが、今後も計画的な改修に努めるとともに、日常の巡回点検等を行うことにより、市民が安全に、そして安心してご利用いただけるよう、施設管理の充実に努めていきます。
評価結果	A
担当課	生涯学習課